



GOOD
HOLDINGS

SUSTAINABILITY REPORT 2022

グッドホールディングスグループ サステナビリティレポート

Draw The Future

グッドホールディングスグループが描く、
未来の社会

グッドホールディングスグループが描く、未来の社会

グッドホールディングスグループは、
その時代の社会課題を解決することで自らを進化させてきました。

どんな時も、社会とその未来を見据え、解決すべき社会課題を前にして
素直に、真摯に取り組み、その度に自らも進化する。
これが1953年の創業から続く私たちの事業の軌跡です。

そしてこれからのステップは、目の前の社会課題に取り組みながらも、
子どもたち、そのまた子どもたちが暮らす社会をよりよいものとするために、
私たちが自ら未来を描き、築いていくこと。

未来の社会と地球のために、私たちができることはたくさんあります。
これからも環境ビジネスを継続し、新しい価値を創り出すことで
未来の社会と地球環境に貢献してまいります。

CORPORATE MESSAGE

捉える、応える、超えていく

毎日グッドを創る。
少しずつ、創っていく。

その仕事がなんであろうと。どこであろうと。
はじめでも、おわりでも。

それは、人を、地域を、社会を、
ちょっとだけ前に、わずかだけ先に、
進ませるものであると信じたい。

捉えよう。
そこにある問題を、わたしたちにしかない目で。
応えよう。
わたしたちにしかできない方法で。
超えていこう。
今あるわたしたちの姿を。

編集方針

「サステナビリティレポート」は、お客様をはじめ、地域住民の方々や従業員とその家族、ステークホルダーのみならずグッドホールディングスグループがめざす姿や持続的な成長、企業価値向上の取り組みについて、より一層ご理解いただけるよう毎年発行しております。
2021年度は若手リーダーを中心に「長期ビジョンプロジェクト」が発足するなど、グループ全体で未来をイメージした歩みをスタートしております。そのような取り組みを「Draw The Future (未来を描く)」と題したテーマでお送りいたします。

対象組織

グッドホールディングス株式会社、株式会社リヴァックス、株式会社リリーフ、株式会社ダイキョウクリーン、株式会社大栄衛生、株式会社大協（報告書は各社のホームページでも公開しており、英語版についてはホームページのみの掲載としております）

対象期間

2021年度（2021年4月～2022年3月）※活動報告に一部2022年度を含む

発行月

2022年9月（次回：2023年9月予定）

対象分野

事業活動に関する環境的側面、社会的側面、経済的側面

参考ガイドライン

社会的責任に関する国際規格「ISO26000」/GRIガイドライン第4版/環境省「環境報告ガイドライン」

本レポートでは、ISO26000「社会的責任に関する手引き」の中核主題である7項目をもとに、「コーポレート・ガバナンス（組織統治、公正な事業慣行）」、「環境における取り組み（環境）」、「従業員とともに（人権、労働慣行）」、「地域社会とともに（消費者課題、コミュニティへの参画およびコミュニティの発展）」のとおり、編集しております。

CONTENTS

01-02	グッドホールディングスグループが描く、未来の社会
03-04	トップメッセージ
05-06	経営理念/行動指針/SDGsへの取り組み
07-08	グッドホールディングスグループ概要/沿革
09	財務情報・非財務情報
10	2021年度トピックス
11-16	[特集]若手リーダーが描く、グッドホールディングスグループのミライ予想

[事業紹介]

17-22	株式会社リヴァックス
23-24	株式会社リリーフ
25-26	株式会社ダイキョウクリーン
27-30	株式会社大栄衛生/株式会社大協

[ESGの取り組み]

32-36	コーポレート・ガバナンス
37-40	環境における取り組み
41-45	従業員とともに
46-54	地域社会とともに ISO26000対照表



Draw The Future

TOP MESSAGE

目の前にある課題に対して 解決策を示せる企業でありたい

当社は、創業以来、その時代の社会問題に真摯に向き合うことでビジネスを展開してまいりました。創業者が高度成長期のごみ問題を解決するために「ごみ収集事業」をスタートさせたところから始まり、1970年代には産業廃棄物の適正処理に対応するため「産業廃棄物処理事業」に着手、さらには高齢化社会の課題解決を掲げた「おかたづけ事業」と「リユース事業」、飲食店の衛生を通じて地球環境保全に貢献する「グリストラップ清掃事業」、昨今の食品ロス問題の解決をめざす「食品リサイクル事業」と、現在5つの事業会社によるホールディングス体制で社会問題解決型のビジネスを展開しております。

また、昨今のコロナ禍においては、2017年に株式会社大協が業界の人材不足を解決するために始めた環境ビジネスに特化した派遣事業「Gキャリア」が感染症流行の影響を受けた業界からの人材の受け皿となり、職を失った人たちに安定した職場を提供するという意味で社会貢献ができたのではと感じています。

今年度中には廃棄物をエネルギーに変換する「バイオガス発電プラント」が竣工し、テスト稼働に入ります。地域で発生した廃棄物を地域のエネルギーに変換するという事は循環社会の理に叶っており、かねてから「資源循環」という課題に挑んできた当グループにとって「再生可能エネルギー事業」という新たな分野への展開となります。

「環境」がこれまでにない重要な社会的テーマとなっています。私たちは一番現場に近いところで環境を扱う企業として、これからも既存のビジネスを深化させつつ、環境にまつわるさまざまな課題に対して社会や顧客へ解決策を示すことができる企業でありたいと考えております。

「五方よし」をミッションに、 顧客と社会の課題を解決し続けること。 それが、私たちの環境ビジネスです。

私たちの想いが世界全体の 取り組みとして意識され始めた

当社は2016年にホールディングス体制へと移行しました。その際、経営理念をそれまでの「自社」「顧客」「社会」への貢献を表現した「三つの貢献」に、「働く人」と「将来世代」を加え「五方よし」としました。この考え方はSDGsに通じるものです。

また、当社は自社の環境ビジネスをCSV (Creating Shared Value : 社会課題に取り組むことで社会的・経済的価値を創造する) と捉え、「社会に対して責任を果たし、価値を提供する」という思いのもとCSR (Corporate Social Responsibility) 報告書を発行しておりました。

2015年の国連サミットでSDGsが採択されましたが、当社では2年の議論を経て2017年度よりサステナビリティレポートを発行し、持続可能な社会の実現に向けての取り組みを開示し、ステークホルダーのみなさまにお届けしております。

当社にとってSDGsは「社会課題を環境ビジネスで解決する」という当社のビジネスそのものであり、経営理念とも親和性の高い考え方です。そういう意味では、SDGsは当社にとっては事業の基盤にあるものであり、私たちの想いが世界全体の取り組みとして意識され始めたことと認識しております。

SDGsは単独ではなくパートナーシップを組んで達成していくものです。顧客とのパートナーシップ、地域社会とのパートナーシップ、NPOとのパートナーシップ、働く社員とのパートナーシップ。これまで以上にステークホルダーの皆さまとよいパートナーシップを築き、ともに目標の達成をめざしていくことができればと考えています。

五方よしの経営理念のもと、 将来世代へ貢献していきたい

今期は「長期ビジョンプロジェクト」として、2050年に向けた長期計画を策定しました。「長期ビジョンプロジェクト」は、2050年においてもバトンを持って走っているであろう、またはバトンを次の世代に渡そうとしているであろう30代、40代のメンバーで取り組んでおります。若手社員にとっては、2050年までの持続可能な事業のあり方をイメージし、未来の自分が働く姿を思い描く良い機会になったのではないかと考えています。

私たちは創業以来、社会課題の解決をミッションに成長を続けてまいりましたが、これからは若いリーダーたちが未来を見据え、自分たちが理想とする未来を創っていく時代です。P11からの特集では、若手リーダーたちが座談会で彼らが思い描く未来について自由に語っています。ぜひ当社の若手リーダーたちとともに、皆さまにも2050年の未来への想像を楽しんでいただければと思います。

グッドホールディングス株式会社
代表取締役社長

赤澤健一

経営理念

「五方よし」の経営理念のもと
環境ビジネスを通して

未来の明るい社会を創ることをめざします。

私たちが掲げる経営理念「五方よし」は、近江商人が商売訓としていた「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の「三方よし」に、事業に従事する社員を含む関係者が自らの成長と豊かさを実感できる「手代よし」、未来の担い手である次世代への責任と持続可能な社会の構築に取り組む「孫子よし」を加えたものです。

地域の方々や取引先、行政機関、社員やその家族といったさまざまなステークホルダーとの関係を大切にしながら、常に時代の先を見据えて未来に向かって進化する。「いま、社会にとって何が大切なのか」「未来の社会のためにどのような事業を行うべきか」を常に意識し、社会課題に役立てていくことが私たちの使命です。

グッドホールディングスグループの価値創造



行動指針

私たちの「行動指針」は、
進化し続ける姿勢を
育んでいます。

私たちが展開する環境ビジネスは社会の基盤を形成する重要なもの。地域社会との信頼関係を第一に、すべての従業員が凡事徹底を基本に確かな責任と誇りをもって仕事に取り組んでいます。だからこそ、その時代が必要としている新たなサービスを創り出すことが可能なのです。

1 責任とプライドを持って
仕事に取り組む

お客様から報酬をいただいている自覚を持ち、常にお客様に満足いただける結果(成果)を残せるよう高いプライドを持ちながら仕事に対して真摯に取り組む

2 自主性と協調性の
バランスをとる

「今、自分が何をすべきか自ら考えて実践する」という自主性と、「みんなのために考え、協力して物事に取り組む」という協調性のバランスをとる

3 前向きにチャレンジする

現状に満足せず、前向きに新しいことにチャレンジし続け、「仕事を真剣に取り組むからこそ楽しい(面白い)」という姿勢で取り組む

4 どんな状況にも適応する
(適者生存≠弱肉強食)

変化に敏感であり、過去の成功や失敗、習慣に囚われず、様々な難しい状況でも適応する努力をし続ける

5 適正な利益を確保する

われわれが責任を負う人々の期待に応えるため、且つ事業基盤の確立と将来の繁栄のためには適正な利益の確保が不可欠であることを認識する

SDGsへの取り組み

私たちにとって
「事業を継続すること」が
SDGsへの貢献と考えます。

環境ビジネスに携わる私たちが見つめているのは社会の未来です。SDGs(持続可能な開発目標)をさらに明るく確かな未来をもたらすための過程と捉え、コーポレート・ガバナンス、人権・労働慣行、コミュニケーションの分野においてSDGsを踏まえた取り組みを行っています。



グッドホールディングスグループの取り組み

コーポレート・ガバナンス

- 組織統治
- 法令順守
- 情報開示・説明責任

環境における取り組み

- マテリアルバランス
- 活動の目標と実績
- 環境負荷低減の取り組み
- 環境パフォーマンスデータ

従業員とともに

- 活動の目標と実績
- 労働安全衛生の取り組み
- 人事に関する取り組み
- 安心して働ける環境づくり

地域社会とともに

- 活動の目標と実績
- お客様とのコミュニケーション
- 消費者課題の取り組み
- 苦情・事故

グッドホールディングスグループ概要

社会課題を捉え、応える力で、 未来の社会に貢献します。

私たちは、常にその時代の社会課題に向き合い、解決に尽力することで進化してきました。

1960年に家庭ごみ、事業ごみ収集事業からスタートした事業は、1970年には産業廃棄物処理事業へ。さらには高齢化社会、食品ロスといったその時代の社会問題に着手し、事業化を実現させてきました。2022年度中にはバイオガス発電プラントが竣工し、食品リサイクル事業がいよいよ再生可能エネルギー事業へと展開します。

私たちは「社会とともにある企業」として、これからもよりよい未来をめざして進化を続けます。



GOOD HOLDINGS

グッドホールディングス 株式会社

所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号
代表者名：代表取締役社長 赤澤 健一
設立：1960年 資本金：96百万円
従業員数：11名

事業内容

グループ財務・経理・人事・労務・
広報、経営支援および総合戦略の策定

連結売上高 **4,228百万円** ※1

※1 単位未満切り捨て(特に断りのない場合、以降も同様)

グループ従業員数 **281名** ※2

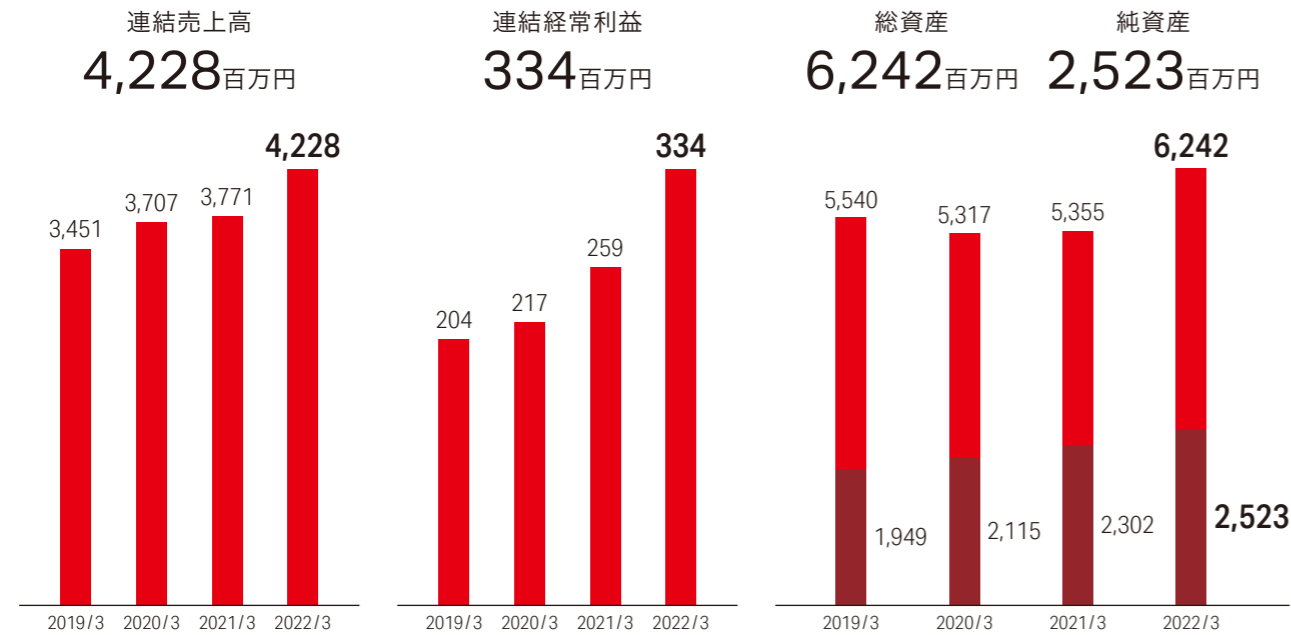
※2 従業員数は常用雇用者(社会保険負担をしている者：従業員兼務役員除く)の数

株式会社 リヴァックス 産業廃棄物の収集運搬・中間処理 各種施設の清掃・管理	所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号 代表者名：代表取締役社長 山本 英治 資本金：81百万円 従業員数：65名 売上高：1,733百万円	事業内容 産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬 産業廃棄物の中間処理(破碎・乾燥) 飲料系商品のリサイクル 排水処理施設などの清掃・管理
株式会社 リリーフ おかたづけサービス リユースサービス	所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号 代表者名：代表取締役社長 赤澤 知宣 資本金：50百万円 従業員数：33名 売上高：516百万円	事業内容 おかたづけサービス (遺品整理、生前整理、残置物撤去) リユースサービス
株式会社 ダイキョウクリーン グリストラップ清掃	所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号 代表者名：代表取締役社長 津田 政房 資本金：80百万円 従業員数：40名 売上高：448百万円	事業内容 グリストラップや排水管を含む 水回りの衛生維持管理サービス
株式会社 大栄衛生 西宮市のごみ収集事業	所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号 代表者名：代表取締役社長 森下 和尚 資本金：10百万円 従業員数：62名 売上高：910百万円	事業内容 一般廃棄物の収集運搬(西宮市) 産業廃棄物の収集運搬
株式会社 大協 伊丹市のごみ収集事業 人材派遣事業	所在地：兵庫県伊丹市北河原5丁目3番31号 代表者名：代表取締役社長 平井 里美 資本金：6百万円 従業員数：70名 売上高：625百万円	事業内容 一般廃棄物の収集運搬(伊丹市) 産業廃棄物の収集運搬 人材派遣・人材紹介

グッドホールディングスグループの歩みと社会の変遷

グッドホールディングスグループの歩み	<p>1953 創業者が廃棄物回収業を創業</p> <p>1968 有限会社大栄衛生を設立</p> <p>1974 大栄サービス株式会社を設立(リヴァックス)</p> <p>1976 有限会社大協工業所を設立</p>	<p>1984 処理センターを兵庫県西宮市鳴尾浜に設置(リヴァックス)</p> <p>1999 同業他社との協調体制(アライアンス事業)構築(リヴァックス)</p>	<p>2002 報告書(現サステナビリティレポート)発行スタート</p> <p>2006 産業廃棄物の破碎施設をリニューアル(リヴァックス) 大協工業所を株式会社に改組および大協に商号変更 計量器付き収集車両の導入(大栄衛生・大協)</p> <p>2007 有機性産業廃棄物の乾燥処理施設が完成(リヴァックス) 同時にバイオマス燃料化事業を開始</p> <p>2008 廃棄飲料系商品のリサイクル事業のため、リバースマネジメントセンターを新設(リヴァックス) 甲山農地プロジェクト(現こども農業塾)を開始 JICA研修の受入れを開始 関西大学第一中学校の施設見学受入れを開始(リヴァックス)</p> <p>2009 大栄サービスの社名をリヴァックスに変更</p>	<p>2010 グリストラップ清掃事業を開始(ダイキョウクリーン)</p> <p>2011 おかたづけサービス事業を開始(リリーフ)</p> <p>2013 海外リユース事業を開始(リリーフ)</p> <p>2014 関東事業所を東京都足立区に開設(リリーフ) swell事業を開始(リヴァックス) バイオマスボイラーを新設(リヴァックス)</p> <p>2015 チャイルドドリームへの寄付を開始</p>	<p>2016 ホールディングス体制へ移行 五方よしの経営理念策定 リヴァックスホールディングスの社名をグッドホールディングスに変更 埼玉県三郷市に関東事業所を開設(リリーフ・ダイキョウクリーン)</p> <p>2017 グループとして東京都千代田区に東京オフィスを開設 さくらチーム発足(大栄衛生) 人材派遣・人材紹介事業(G career)を開始(大協)</p> <p>2018 愛知県名古屋市に名古屋事業所を開設(リリーフ) 人事制度見直し</p>	<p>2020 フードバンクへの寄付を開始(リヴァックス)</p> <p>2021 バイオガス発電プラントの建設を開始(リヴァックス)</p> <p>2022 神奈川県横浜市に京浜事業所開設(ダイキョウクリーン)</p>
社会の変遷	<p>1950- 1960年代 高度成長期 1970 「廃棄物処理法」改正により、一般廃棄物と産業廃棄物という概念が誕生</p>	<p>1980- 1980年代 バブル経済 1985頃～ 家庭ごみの排出量が急増し始める 1990 バブル崩壊 1995 「容器包装リサイクル法」制定 1997 「京都議定書」地球温暖化の原因となるCO₂などの削減率が定められる</p>	<p>2000- 2000 一人当たりの家庭ごみ(一般廃棄物)排出量が減少し始めるあらゆる廃棄物においてリデュース、リユース、リサイクルを主軸とした時代へ 2001 「廃棄物処理法」改正により、廃棄物処理のマニフェスト制度がさらに強化 コンプライアンスの遵守が重要視される時代へ 2007 「改正容器包装リサイクル法」完全施行により、さらに社会の「ごみの減量化」への意識が高まる</p>	<p>2010- 2010 「カンクン合意」にて、日本の温室効果ガス削減目標を「2020年度までに2005年度比で排出量を3.8%削減」とする 孤独死者数が急増し、社会問題化 2015 「パリ協定」にて、日本の2030年度の温室効果ガスの排出を2013年度の水準から26%削減することを目標とする SDGs(持続可能な開発目標)が策定される 2018 食品ロスが社会問題に</p>	<p>2020- 2020 菅総理所信表明演説で「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」を宣言 2021 気候サミットにて日本の2030年度の温室効果ガス削減目標を「2013年度から46%削減」と宣言</p>	

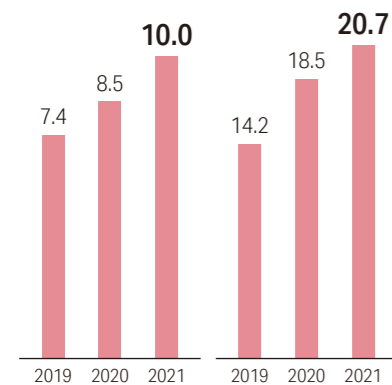
財務情報



非財務情報

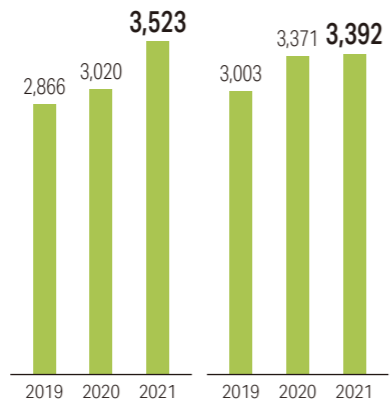
ダイバーシティ

全役職者に占める女性役職者の割合 **10.0%**
 女性従業員に占める女性役職者の割合 **20.7%**



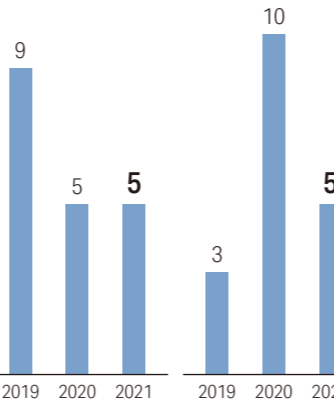
環境

CO₂総排出量 **3,523 t-CO₂**
 電気使用量 **3,392 千kWh**



安全

休業災害件数 **5件**
 不労災害件数 **5件**



TOPICS グッドホールディングスグループ 2021年度 トピックス

リヴァックス
第30回兵庫県環境にやさしい事業者賞
「優秀賞」受賞

リヴァックスが行っている飲料製品のリサイクル事業、フードバンクへの寄付、「こども農業塾」への取り組みが評価され、第30回兵庫県環境にやさしい事業者賞(主催：兵庫県)において「優秀賞」を受賞いたしました。



リヴァックス 新プラント地鎮祭を実施

11月12日、リヴァックスのバイオガス発電プラント建設予定地にて地鎮祭が執り行われました。当日は天候にも恵まれ、工事関係者の皆さまとともに工事の安全を祈願いたしました。



第9回グッドライフアワード
「実行委員会特別賞」受賞

当社グループが発行した「グッドホールディングスグループサステナビリティレポート2021」が第9回環境省グッドライフアワード(主催：環境省)において「実行委員会特別賞 環境社会イノベーション賞」を受賞いたしました。



セーリングチーム 関西選手権3位入賞

7月3日～4日、兵庫県の新西宮ヨットハーバーにて「国際スナイプ級関西選手権大会」が開催され、グッドホールディングスセーリングチームが2位、3位入賞いたしました。



リヴァックス
第9回食品産業もったいない大賞
「農林水産省大臣官房長賞」受賞

リヴァックスの飲料製品・食品廃棄物のリサイクル事業が、第9回食品産業もったいない大賞(主催：公益財団法人食品等流通合理化促進機構)において「農林水産省大臣官房長賞」を受賞いたしました。



リヴァックス
兵庫県産業資源循環協会より優良従業員表彰

一般社団法人兵庫県産業資源循環協会より優良従事者としてリヴァックス従業員が表彰されました。今回、コロナ渦の影響で協会での授賞式は行われず、社内で授与を行いました。



メディア掲載

グループ各社の特色ある事業について、各種メディアに取り上げていただきました。
グッドホールディングス：環境新聞(2021年11月24日)
リヴァックス：エコひょうご(2021年9月21日)
 全国農業新聞(2022年2月18日)
リリース：循環経済新聞(2022年2月28日) など

特集

若手リーダーが描く、 グッドホールディングスグループの

ミライ予想



稲富啓介
2002年4月1日入社
(株)リヴァックス
SWELL事業部 部長

小倉浩二
1996年4月1日入社
(株)リヴァックス
取締役業務部長

平井里美
1996年4月1日入社
(株)大協 代表取締役社長
グッドホールディングス(株) 取締役

赤澤知宣
2014年7月30日入社
(株)リリーフ 代表取締役社長
グッドホールディングス(株) 取締役

畑井浩希
2001年4月1日入社
(株)リヴァックス
取締役営業部長

児島毅
2002年4月1日入社
(株)リヴァックス
取締役処理センター長

矢野猛
1997年4月1日入社
(株)大協
取締役事業部長

富士谷 真波
2013年4月1日入社
グッドホールディングス(株)
経営サポート部長

Web参加

伊藤隆
1997年4月1日入社
(株)ダイキョウクリーン
取締役



Web参加

津田政房
1997年4月1日入社
(株)ダイキョウクリーン
代表取締役社長



グッドホールディングスグループでは、

30代、40代の若手社員が会社の将来を担うリーダーとして活躍しており、

「2050年の未来において現役で活躍している世代」として長期ビジョン策定を行なっています。

グッドホールディングスグループのリーダーたちはどのような未来を見ているのでしょうか。

座談会を開催しました。

グループ会社のポートフォリオを活かし、 コロナ禍で見えてきた未来への道筋

富士谷：まず、今期の事業については各社いかがでしたか。

児島：バイオガス発電事業については、新プラント建設が昨年12月に着工し、現在工事が進行中です。

稲富：今期は新型コロナウイルスのオミクロン株の流行で欠員が目立ちました。これまで仕事を「人軸」で動かしていたので、その人が不在の場合にどのように仕事を進めていくか、改めて課題として考える機会となりました。個人の専門性を高めると同時に広く浅く知識を持つ人材も必要で、危機管理に強い仕組みや体制を整えていく必要があります。

富士谷：新型コロナウイルス感染症の流行でいうと、一般廃棄物を扱う大栄衛生、大協はいかがでしたか。

矢野：一般廃棄物事業は、家庭ごみを収集するエッセンシャルワーカーという立場として「事業を止めない」ということが最重要でした。いかに感染者を出さないかに重きを置いた一年でした。

富士谷：コロナ禍で環境ドライバーがエッセンシャルワーカーとして注目されたり、環境ビジネスが「安定した業界である」と見直されました。派遣事業のGキャリアへの影響はどうでしたか。

平井：そうですね。飲食業界などコロナの影響を受けた業界からの転職者が増えました。コロナで職を失った人たちに安定した職場を提供できたのは社会貢献になったと思います。また、この業界への転職理由としてエッセンシャルワーカーという仕事の社会性を挙げた人も多く、この仕事が一定の地位を得たと感じています。事業としても、前年度より数字を伸ばしています。今後は人材紹介、請負の実績も積んでいきたいと思っています。

畑井：リヴァックスも昨年の春からじわじわと新型コロナウイルス感染症流行の影響を感じ始めました。社会活動が止まったことで産業廃棄物処理の取引量が減る中、新たにバイオガス発電プラントが建つというのは、営業とし

てはプレッシャーが大きかったです。コロナ禍では新規営業が進みにくいということがあり、これまで以上にクライアントの明確なニーズを把握しなければ新しい仕事はいただけないと感じています。そういう意味では、コロナ禍で営業の提案力はレベルアップしました。

小倉：リヴァックスのswell事業は、チームがレベルアップできた一年でした。新しい車両を現場でどう役立てていくか、悩みながらも自分たちで考え、提案できるチームになれたと思います。取り扱う作業の規模や難易度も上がったことで、今期は入札も取れて良い数字を残すことができました。

富士谷：リヴァックスはいくつか賞をいただきましたよね。

畑井：「第30回 兵庫県環境にやさしい事業者賞 優秀賞」をいただきました。当社の食品リサイクル事業やCSRの取り組み、フードバンクへの寄付などの社会活動が評価されました。また、農水省からは「第9回 食品産業もったいない大賞」をいただきました。食品廃棄物を焼却や埋め立てでなく、リサイクル処理で資源として新たな価値を創造する活動などについて評価いただいています。

富士谷：リリーフはグループで唯一、BtoCの事業ですが。
赤澤：そうですね。おかたづけ事業は新型コロナウイルス感染症流行の影響は大きかったですし、リユース事業も海外のロックダウンを受けて大変な状況でした。しかし、不安はありながらもこの1年で適応し、結果的には前年度よりも成長かつ目標達成でき、チームとしての下地が出来てきたと感じています。まだ海外の状況は安定しませんが、コロナ禍を経て世の中のリサイクルの意識は高まってきているので、リユース事業は今後ももっと伸ばせるイメージがあります。結果的にですが、外部環境の変化は当社にとってはよかったですと感じています。

富士谷：ダイキョウクリーンは、4月に京浜事業所を開設するなどコロナ禍においても拡大を続けていますね。

伊藤：主なクライアントが飲食店なのでコロナ禍の影響は大きく、飲食店のグリストラップ清掃はこの2年間、延期やキャンセルが続きました。しかしコロナ以前から関東が取り組んでいた新規営業が実を結び、それが結果的に減った仕事量を上回りました。そういった状況でしたので、弱気になることなくむしろ「業界全体が苦しい時に出す方がチャンス」と、以前から構想していた新拠点の開設を決行しました。

津田：そうですね。去年は、「コロナがいつか明けるだろう」と思いながら事業を進めていましたが、いよいよ「アフターコロナはない」と考えた時に、横浜に事業所を出すのは延期せずにやるべきだと判断しました。ここ数年の厳しい状況下では、改めて人材確保や市場の再調査などに注力し、「自らの会社を顧みる良い機会」であったと良いように捉えています。

地球環境問題や社会問題の解決に取り組み、 すべての人々が幸せで豊かな社会を創る

富士谷：先日の長期ビジョンプロジェクトでは、若手リーダーたちの話し合いで「地球環境問題や社会問題の解決に取り組み、すべての人々が幸せで豊かな社会を創る」というメッセージを掲げました。

赤澤：ホールディングスとして全事業会社が目指す方向性を長期的に見据えて動いていくことが重要であるということで、30年後の2050年に向けての思いをひとつにしました。

富士谷：同じ方向を見据えつつ、各事業会社がそれぞれ事業を進めていくということでしょうか。

平井：そうです。私たちは20年以上前に新卒入社しました。当時は「廃棄物処理業」だった会社が「社会課題解決型企業」となり、「エネルギー創造企業」になろうとしてい

矢野：コロナ禍はDXを考えるきっかけにもなりましたね。全事業会社としてもDX化は随分進んだと思います。

平井：この2年で各社体制も強化されましたし、リヴァックスのバイオガス発電プラント建設やダイキョウクリーンの京浜事業所開設など、コロナ禍においてもいい道筋ができていますね。

畑井：そういえば、みんな諦めることはなかったですね。苦しい状況にちゃんと向き合いました。誰からも「コロナだから仕方ない」というセリフは出ませんでした。

平井：外部環境に適応する力は、私たちの強みかも知れないですね。

畑井：一般廃棄物事業がグループの基盤として安定していて、グループ各社でポートフォリオが働く仕組みになっているのも強みだと思います。非常時に強い企業であると言えるのではないのでしょうか。

ます。20年後、30年後、私たちはどんな企業でありたいのかを話し合うにあたり、2050年という未来はどうなっているのか、兵庫県のビジョン課の方を招いて勉強しました。そこで、「地球環境問題は企業としては外せない課題である」と認識し、策定したのが今回の長期ビジョンです。

畑井：2050年の話なので、あくまでもイメージで夢物語ではありますが、未来の社会ではどんな課題があって、それに向けてどうアプローチしていくのかを各々イメージできましたし、そのために企業としてどうあるべきか議論できたと思います。

稲富：遠い先の長期ビジョンを議論できたからこそ、中期計画にも落とし込むことができました。



未来の循環社会を支える、「なくてはならない企業」でありたい

富士谷：未来の社会やそこにいる私たちは、具体的にどうなっているんでしょう。

赤澤：リリーフは空き家問題に貢献したいですね。空き家を片付けるとごみが出ます。今、ごみとして捨てているものを資源として100%リサイクルすることでリリーフが片付けるほど環境に貢献できるという仕組みができたらと思います。

小倉：リヴァックスは、「廃棄物を資源に」というテーマで廃棄物を飼料や肥料にリサイクルしていますが、最終的には農業や畜産まで行うという筋道が描けたと思います。廃棄物処理にリヴァックスが介在することで廃棄物が資源になる。そういうところに存在意義があると思います。

津田：そういう意味では、ビル清掃で出た汚泥もエネルギーに変換できたら、ダイキョウクリーンの取引が多ければ多いほど、環境に寄与できることになります。

伊藤：ダイキョウクリーンは、会社としてはビルの総合メンテナンスの会社になってほしいですね。すでに自動洗浄機能のあるトイレやエアコンはありますが、ビルメンテにおいても配管や窓などすべて建物自体で自動洗浄できるようにしているかも知れません。

畑井：未来には地域で資源が循環するようなコミュニティができていて、私たちがそれを主導できる重要な役割を担えたらと勝手には思っています。行政とも関わりながら、「なくてはならない存在」として循環社会を支える一歩になれば面白いですね。

矢野：ごみ収集も変化していて、パッカー車がEV車になっていることはもちろんですが、無人運転、自動運転もあるかも知れません。

稲富：車以外にも、今人が行っている工事現場や危険な場所での現場作業もロボットが楽々行っているところが想像できます。あと、商談もメタバース空間でやっているとか。

平井：それに伴って環境ビジネスの働き方も変化していくと思います。AIやロボット化が進みますが、どこまで行っ

ても人がやる仕事は必ず残ります。派遣は最終的には総合人材サービスの提供として「人」に関わる課題は全て解決したいですね。

小倉：未来には各家庭にエネルギー変換機があって、ごみを自宅でエネルギー変換するエネルギーの「自産自消」が実現しているかも。家庭でエネルギーに変換しきれないものも、家庭のごみ箱からパイプを伝って地域の大型エネルギー工場に運ばれて、街全体のエネルギーに変換されるとか！

赤澤：そもそも、大型ごみが出ない社会になっているかも知れません。家具を買くと素材が送られてきて自宅の3Dプリンターで作る、飽きたら素材に戻してまた3Dプリンターで作り直すのでごみが出ない、というぐらいまで行くかも知れません。

平井：その頃には、大栄衛生、大協は宇宙ごみの収集をしているかも知れませんか。

富士谷：エネルギー事業も始まったので、それこそ将来は「グッド電気」という電力会社ができていないのでは。

児島：そうですね。今はまだイメージできませんが、規模さえあればそれも見てくると思います。でも、いつかそこにつながっていくんだろうとは思っています。

富士谷：いろんな意見が出ましたが、そんな未来において、グッドホールディングスグループは循環社会のどこまでを担っているんでしょう。

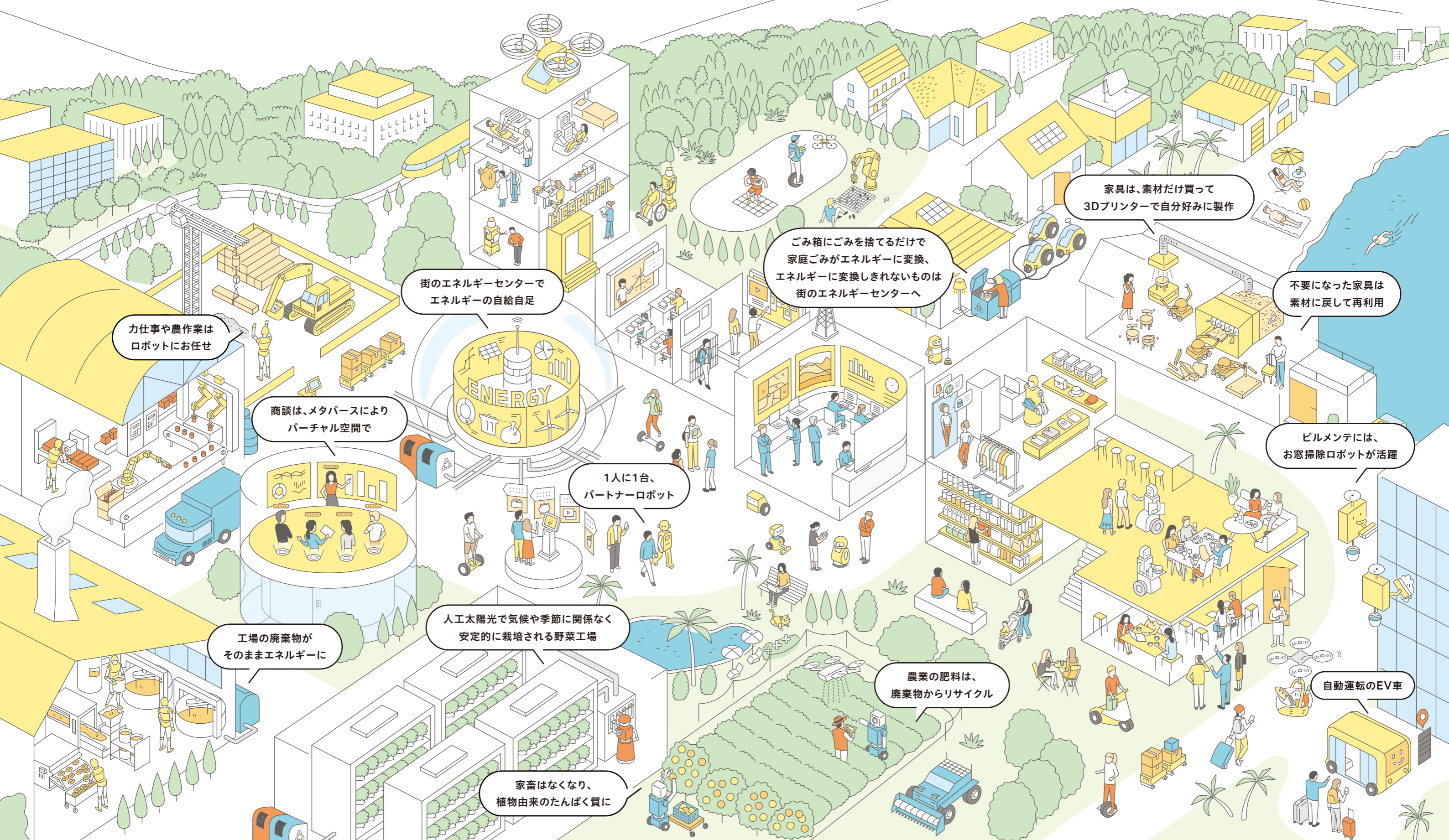
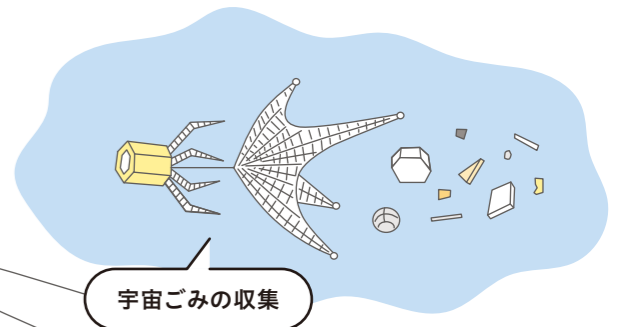
畑井：正確なことは分からないのですが、それが分かっていたら未来ではないので、こういう未来を作るための今なんだと思いながら日々の事業活動に取り組んでいきたいですね。

津田：そうですね。今期もグループ会社としてお互いにシナジーを利かせて、長期ビジョンに向かっていきましょう。隣の人が困っていれば助ける、頑張っていれば応援するという姿勢で。そして、私たちの下の世代を早く作って思いを共有していきたいですね。来年のこの席には新しい若手が入っていればと思います。



グッドホールディングスグループが描くミライ予想図

グッドホールディングスのリーダーたちが自由に座談会で語った未来をイラストにしてみました。
未来の社会はどのように変化しているでしょうか。また、みなさんは、どんな未来を描きますか。
私たちは、ステークホルダーのみなさまと一緒に明るい未来を描き、創っていきたく考えています。



力仕事や農作業は
ロボットにお任せ

商談は、メタバースにより
バーチャル空間で

工場の廃棄物が
そのままエネルギーに

街のエネルギーセンターで
エネルギーの自給自足

1人に1台、
パートナーロボット

人工太陽光で気候や季節に関係なく
安定的に栽培される野菜工場

家畜はなくなり、
植物由来のたんぱく質に

ごみ箱にごみを捨てるだけで
家庭ごみがエネルギーに変換、
エネルギーに変換しきれないものは
街のエネルギーセンターへ

家具は、素材だけ買って
3Dプリンターで自分好みに製作

不要になった家具は
素材に戻して再利用

ビルメンテには、
お窓掃除ロボットが活躍

農業の肥料は、
廃棄物からリサイクル

自動運転のEV車



株式会社リヴァックス

産業廃棄物の収集運搬・中間処理 各種施設の清掃・管理

「循環型社会」の実現をめざして 産業廃棄物の可能性を追求する

リヴァックスの考え方

株式会社リヴァックスは、「産業廃棄物のリサイクルを構築すること」で資源循環化をめざしています。廃棄物を削減することは社会の使命です。何もしなければごみになる廃棄物も、創意工夫と技術力で再利用やリサイクルに導くことができます。リサイクルが難しい難処理廃棄物においても、私たちの創意工夫と技術で挑戦し、社会に資源として還元したいと考えています。また、法令遵守と透明性を重視した経営を通じて、ステークホルダーの方々の信頼に応え、より質の高いリサイクルフローを時代に先駆けて創出することで循環型社会に貢献することを使命として事業を行なっております。



会社概要

資本金:81百万円
従業員:65名

代表取締役社長
山本 英治

リヴァックスの事業

産業廃棄物の総合リサイクル事業

「有機性廃棄物のバイオマス資源化事業」「食品リサイクル事業」「アライアンスネットワーク事業」、そして今期から新たに「再生可能エネルギー事業」を加えた4つの事業で、あらゆる産業廃棄物のリサイクルと資源循環化に取り組んでおります。

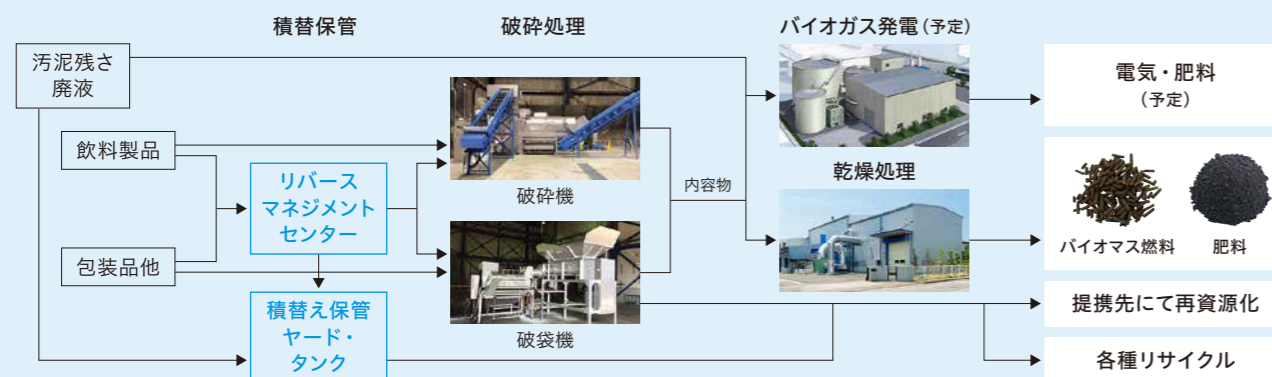
有機性廃棄物のバイオマス資源化事業

事業所から排出される活性汚泥や動植物性残さなどの有機性廃棄物については、自社プラントで乾燥処理を行い、バイオマス燃料や肥料といったバイオマス資源へと100%リサイクルを実現しています。

二酸化炭素排出を大幅削減するバイオマスボイラー

2016年よりリサイクル施設にバイオマス燃料を導入、カーボンニュートラルなエネルギー利用に転換しております。従来の都市ガスからバイオマス燃料にすることで、導入前より年間二酸化炭素排出量を62%削減することができました。

リヴァックスのリサイクルシステム



食品リサイクル事業

期限切れや製造ロスによって生じた飲料製品や梱包された食品系産業廃棄物を、破碎処理と乾燥処理によりバイオマス資源へとリサイクルします。飲料系廃棄商品は、容器と内容物の100%リサイクルを実現しています。RMC(リバースマネジメントセンター)では製品状態の廃棄物を安全に保管することができ、大量の廃棄物にも対応しています。

「飲料製品・食品廃棄物のリサイクル事業」が第9回食品産業もったいない大賞を受賞

リヴァックスの「飲料製品・食品廃棄物のリサイクル事業」が、食品産業もったいない大賞 農林水産省大臣官房長賞を受賞しました。本賞は、食品産業の持続可能な発展に向け「省エネルギー・CO₂削減」「廃棄物の削減・再生利用」「教育・普及」等の観点から顕著な実績を挙げている食品関連事業者に対し交付されるものです。その取組内容を世の中に広く周知することにより、食品産業全体での地球温暖化防止・省エネルギー対策及び食品ロス削減等を促進することを目的としています。

当社は、食品廃棄物を焼却や埋立ではなくリサイクル処理を行うことで、廃棄処理コストを削減するだけでなく資源として新たな価値を創造する活動や、収益の一部をフードバンクに寄付する活動について評価をいただきました。これからも循環型社会の構築に貢献できるような様々な取り組みを進めていきたいと考えております。

再生可能エネルギー事業

食品ロス等から再生可能エネルギーを創る、京阪神エリアで最大級のバイオガス発電プラントが今年度中に竣工します。

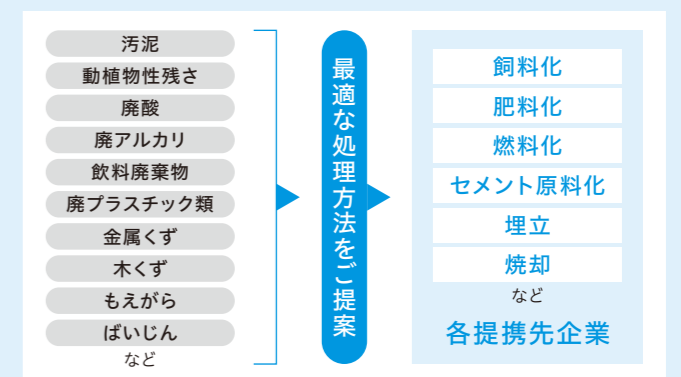
バイオガス発電とは、微生物発酵にて食品ロス等の有機性廃棄物よりバイオガスを生成し、ガスエンジン式発電機によって発電を行うものです。「リヴァックスのリサイクルシステム」にバイオガス発電が加わることで、廃棄物から「電気」という新しい価値が生まれ、リサイクルの次元がさらに上がることになります。

本プラントでは、阪神間を中心とした近畿圏の産業廃棄物約70t/日を原料に電気をつくり出します。都市近郊での大規模バイオガス発電プラントは珍しく、京阪神では最大規模の試みとなります。排出事業者の利便性、運搬コスト低減に貢献させていただきますと同時に、食品リサイクルや再生可能エネルギーを身近に感じていただける施設として行政やNPO、教育機関、環境関連企業と様々な協業を行う予定です。



アライアンスネットワーク事業

産業廃棄物は業者によって扱う廃棄物が変わりますが、当社では長年培ってきたノウハウと提携業者等のネットワークを担って、薬品、廃材などあらゆる廃棄物の処理・リサイクルのニーズにワンストップで対応しております。



設備清掃事業

工場内インフラに特化したswell事業

swell事業は、「廃棄物処理だけでなく工場の清掃までトータルに依頼したい」という顧客ニーズから生まれた事業です。工場の排水処理施設や配管、タンクといった工場内設備に特化した清掃サービスを提供しています。顧客ニーズの中でも「特に技術的に難しく未だ実現されていない課題」に対して高機能な吸引車と洗浄車の技術力でお応えすること、そして顧客の現場に合ったより良い清掃サービスを企画提案し、「コスト面、効率面での改善に貢献すること」を強みに事業展開しています。技術力と提案力で、工場の環境インフラの機能維持に貢献します。

超強力吸引車であらゆる清掃を可能に

国内最大級の超強力吸引車など特殊車両を保有しており、その圧倒的な性能で清掃作業時間の短縮や作業内容の改善を実現しています。「深い地下からの吸引」「レンガ屑など大きな塊の吸引」などこれまで不可能であった作業が可能になり、あらゆる現場のニーズにお応えします。



マルチ吸引車で低コスト・短納期を実現

マルチ吸引車は、粉体専用の特殊車両です。これまで複数台で対応していた、粉体の「吸引・圧送」「容器詰め」「粉体輸送」といった3つの作業を車両一台で行うことができる、まさに一台三役の車両です。吸引した粉体は再利用や破棄も可能で、作業の手間と時間を大きく削減します。



「提案×高いサービス品質×法令遵守」で安心のサポートシステムを構築

1

提案

顧客（製造工場・プラント工場・排水系作業現場）に低コスト・工程短縮等を提案

2

作業

他では困難な作業（高揚程・高比重）を含め、排水処理施設や配管、側溝などの堆積物の清掃を吸引車と高圧洗浄車でサポート（設備の機能回復）

3

アフターサポート

清掃時に回収した産業廃棄物処理を適正に行い、法令に基づいた産業廃棄物管理表（マニフェスト）の返却、次回作業の提案

環境負荷低減の取り組み

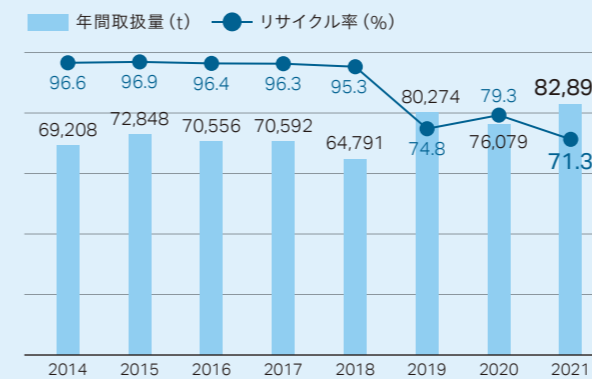
産業廃棄物のリサイクル率

より質の高いリサイクルをめざしています

2021年度のリサイクル率は71.3%でした。引き続き、お客様のリサイクルニーズへの対応、循環型社会の実現、埋め立て処分地の延命に貢献してまいります。

※リサイクル率は年間取扱量のうちリサイクル処理への仕向量の占める割合を表します。
※2018年度まではサーマルリサイクル（焼却）をリサイクル扱いとしていましたが、2019年度よりリサイクルカウントから除外しています。

リヴァックスの産業廃棄物の年間取扱量とリサイクル率



リヴァックスの対応可能な廃棄物処理

汚泥・残渣・廃液の乾燥処理	阪神間最大級のリサイクルプラント	▶	100t/日
	安定した稼働実績	▶	36,000t/年
食品などの容器包装の破碎処理	1日の処理量	▶	43t/日(内容量含む)
	多種類の許可	▶	3種
	・廃プラスチック類 ・金属くず		
	・ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず		
廃棄飲料の処理	飲料処理実績	▶	8,000t/年
	日本最大クラス		
	保有容量	▶	585m ³
			食品リサイクル法に対応

悪臭防止対策

各種対策で、規制値を厳守しています

破碎・積替保管棟には、活性炭式の脱臭装置を4箇所設置、汚泥や動物性残さの保管ヤードにはシャッターを取り付け、廃棄物の搬入出以外には閉鎖しています。乾燥施設から発生する高濃度臭気はバイオマスボイラーの燃焼室内で燃焼脱臭を行い、低濃度臭気には臭気を薬剤で中和脱臭させる薬液洗浄装置を設置しています。西宮市との環境保全協定に基づく臭気測定の結果は、2021年度もすべて規制値内でした。(P22参照)

水質汚濁防止対策

定期的に水質を分析、適正管理しています

廃棄物処理工程において発生する排水は、全量を排水処理施設で処理した後に下水道へ放流しています。連続監視式のpH計を設置し、排水処理施設の水質を定期的に分析しています。法律より厳しい自主基準値を設定し、月1回の管轄行政による排水水質検査に合わせた自主検査を実施するなど、未然防止に努めています。(P22参照)

廃棄物の漏洩・流出防止対策

漏洩・流出防止を徹底しています

リバースマネジメントセンターでは、容器入り廃棄物の荷崩れや開梱作業などで飲料がこぼれた場合でも漏洩しないよう、倉庫外周に側溝および8m²の溜め枡を設けています。さらに、含水率の高い廃棄物を収集運搬する際には漏洩防止のためゴムパッキン付き水密コンテナを使用しています。

処理センターのエネルギー使用量

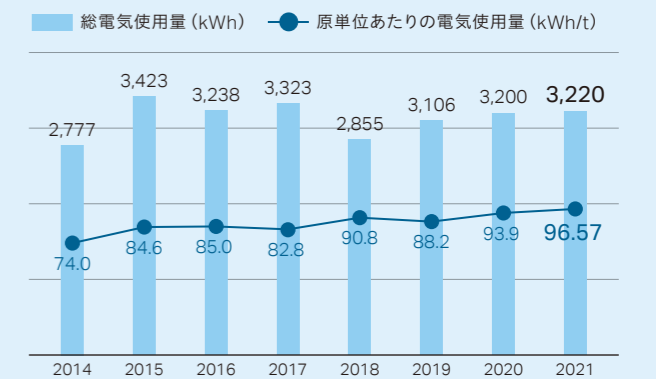
省エネルギー対策に努めています

リヴァックスの処理センター（破碎・乾燥施設）では、電気・都市ガスのエネルギーを使用しています。

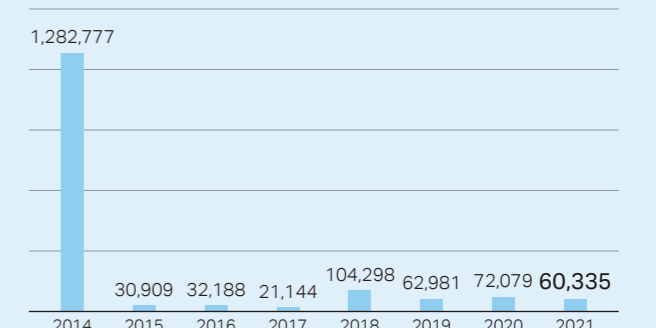
2021年度の電気使用量は3,220,017kWhと増加しました。都市ガス使用量は60,335m³と減少しています。

今後もプラント安定稼働を維持しながらエネルギーの削減に努めてまいります。

処理センターの電気使用量

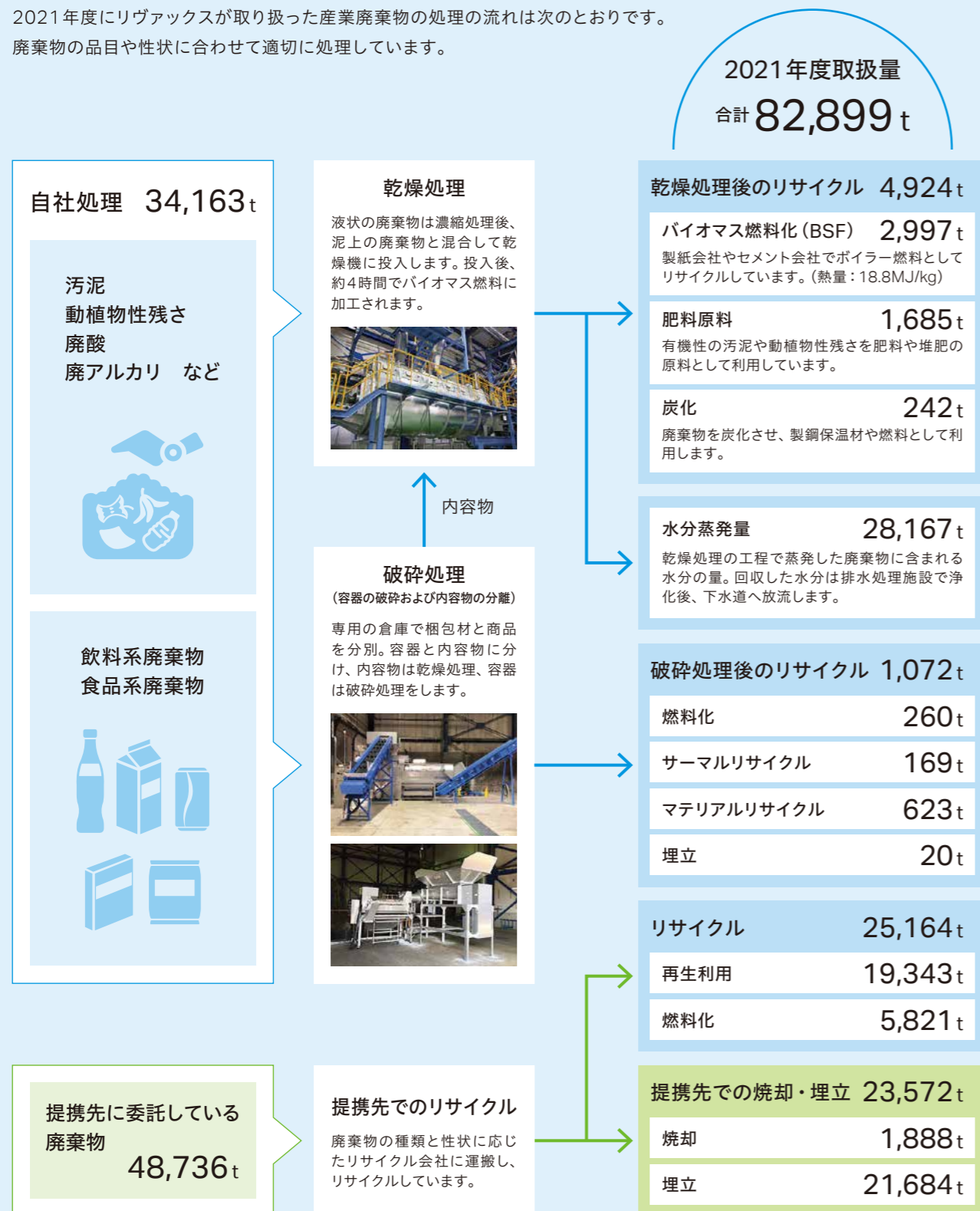


処理センターの都市ガス使用量 (m³)



産業廃棄物処理フロー

2021年度にリヴァックスが取り扱った産業廃棄物の処理の流れは次のとおりです。
 廃棄物の品目や性状に合わせて適切に処理しています。



環境測定結果

臭気測定結果

悪臭物質名	規制基準	単位	東側	西側	北側	南側
アンモニア	1	ppm	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
メチルメルカプタン	0.002	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
硫化水素	0.02	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
硫化メチル	0.01	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
二硫化メチル	0.009	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
トリメチルアミン	0.005	ppm	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
アセトアルデヒド	0.05	ppm	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
プロピオンアルデヒド	0.05	ppm	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
ノルマルブチルアルデヒド	0.009	ppm	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
イソブチルアルデヒド	0.02	ppm	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
ノルマルパレアルデヒド	0.009	ppm	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
イソパレアルデヒド	0.003	ppm	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004
イソブタノール	0.9	ppm	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
酢酸エチル	3	ppm	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
メチルイソブチルケトン	1	ppm	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
トルエン	10	ppm	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
スチレン	0.4	ppm	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
キシレン	1	ppm	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
プロピオン酸	0.03	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル酪酸	0.001	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル吉草酸	0.0009	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
イソ吉草酸	0.001	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
臭気濃度 (敷地境界)	30	—	<10	<10	<10	<10

大気汚染物質測定結果 (2021年11月2日、2022年4月13日実施)

測定項目	規制基準		単位	1回目	2回目
	排出基準	時間あたり排出量			
窒素酸化物 (NOx)	350	0.53	ppm	36	50
	年間排出量	8.5	t	7.3	8.0
	排出基準	—	ppm	<1	<1
硫化酸化物 (SOx)	K値規制	1.58	㎎/N	<0.01	0.0136
	総量規制	0.38	㎎/N	<0.01	<0.01
ばいじん	排出基準	0.2	g/㎎/N	<0.001	<0.001

重金属などの水質検査結果 (2021年5月18日実施)

測定項目	単位	規制基準	本社	サテライト
水温	℃	45以下	23.3	27.5
pH	—	5.0~9.0	7.6	7.6
カドミウム	mg/l	0.03以下	<0.003	<0.003
シアン	mg/l	0.3以下	<0.1	<0.1
鉛	mg/l	0.1以下	<0.01	<0.01
六価クロム	mg/l	0.1以下	<0.02	<0.02
ひ素	mg/l	0.05以下	<0.01	<0.01
総水銀	mg/l	0.005以下	<0.0005	<0.0005
総クロム	mg/l	2以下	<0.02	<0.02
銅	mg/l	3以下	<0.1	<0.1
亜鉛	mg/l	2以下	0.04	0.09
溶解性鉄	mg/l	10以下	<1	<1
溶解性マンガン	mg/l	10以下	<0.1	0.4

水質測定結果

測定項目	規制基準	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
水温	—	20	21	25	27	30	30	28	24	17	14	13	15
pH	5.5~8.6	7.4	7.6	7.3	7.5	8.0	7.6	8.3	6.7	7.4	7.1	7.2	7.2
BOD	500mg/l以下	8	0.9	0.9	2	1.0	12	4	0.9	1.1	3	0.7	0.7
SS	300mg/l以下	<1	2	7	2	3	<1	1	1	1	2	<1	1



株式会社リリーフ

おかたづけサービス

リユースサービス

「おかたづけ」と「リユース」 「不用品をごみにしない」ビジネスを展開

リリーフの考え方

株式会社リリーフは2011年、グループ理念(五方よし)のもと、社員の新しい活躍の場として、社会課題にビジネスで取り組む会社として創業しました。遺品・生前整理、孤独死・ゴミ屋敷原状回復、不用品撤去などを行う「おかたづけ事業」と、おかたづけ事業が回収および、提携先から引き取った不用品を主に海外でリユース・リサイクルを行う「リユース事業」を展開しています。リユースを軸として、当社が片付けすることでごみの発生が抑制される仕組みとなっており、この仕組みを高めていくことで循環社会へ貢献します。



会社概要

資本金:50百万円
従業員:33名

代表取締役社長
赤澤 知宣

リリーフの事業

おかたづけ事業

創業して最初に取り組んだことが「料金とサービスの明瞭化」です。作業後に金額確定という業者が多かった時期に、「見積り後に追加料金は一切いらない」とすることで、お客様に安心を提供できる環境を整えました。また、お見積りから実際の作業までを同じスタッフが担当することで、お客様とコミュニケーションを密にし、様々なオプション作業にも対応できる体制を作ることで、安心してご利用いただけるよう配慮したサービス体制を構築しています。2022年3月期は、1年で4,000件超のお家を整理しました。

当社の「おかたづけ」は、単にモノを「処分する」のではなく、専門知識を持つスタッフが、ごみと資源に分別し、ごみを減らすことで環境負荷の軽減につながります。また、「おかたづけ」で回収した不用品を処分ではなくリユースするという大きな特徴です。お客様にとっては大事にされてきた家財をリユースすることで心の負担が減るだけでなく、処分にかかる金銭的な負担も全体の20%~40%軽減につながっており、このリユース比率向上も重要なテーマと捉えています。

全国にフランチャイズ展開

西宮市をはじめ東京の2拠点を中心に事業を行っています。2015年からはフランチャイズ方式で店舗を増やし、2022年3月末時点で全国20店舗を展開しています。

法人のお客様との連携も強化

自社にてコールセンターの設置および、法人専用の担当を設置し、提携先様とスムーズな連携が行えるように、体制を整えています。また管理体制を整えガバナンス強化に努めています。

神戸市すまいの総合窓口「すまいるネット」に参加

<https://www.smilinet.kobe-rma.or.jp>

神戸市すまいの安心支援センター(愛称:すまいるネット)は、すまいに関する相談や情報提供、普及啓発などを行う「神戸市すまいの総合窓口」です。当社は、市民の暮らしをサポートする「家財の片付け支援事業者」として参加しています。

リユース事業

まだ使うことができる不用品を処分してしまうのではなく、再利用する仕組みとして「おかたづけ事業」と両輪で取り組んでいるのが「リユース事業」です。

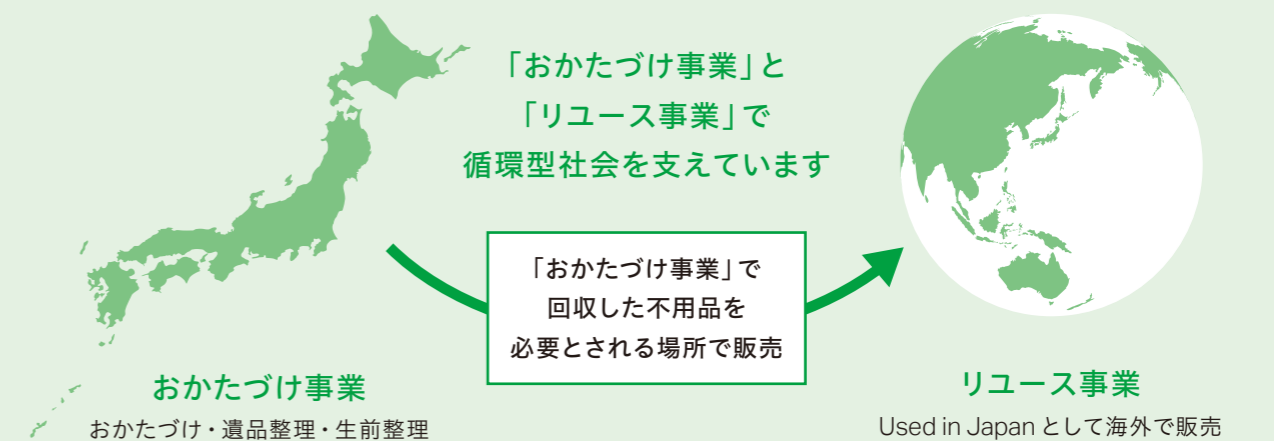
アジアでは日本の中古品が「Used in Japan」として人気があります。当社は、自社で倉庫機能、営業機能を持っており、環境変化にもすぐ対応できる体制が強みです。

どこでどんなものが求められているのかを把握した上で「不用品を求められる場所へ」きちんと仕分けしたう

えで輸出をしています。

現在、東南アジアを中心に年間160本程度コンテナを届けており、約1,400トン程の廃棄物量削減につながっています。今後は衣類や布団の輸出の準備を整えており、リユースの種類を幅を広げてまいります。

リユース事業の仕組みは循環型社会への貢献となり、私たちの経営理念でもある「五方よし」を体現したビジネスモデルを構築しています。



海外のリサイクルショップに並ぶ「Used in Japan」。コンテナが到着すると人が殺到するほどの人気



必要な場所に必要品を届けるため、現地調査でニーズをリサーチ



株式会社ダイキョウクリーン

グリストラップ清掃

ビルや施設の環境管理を担う
ファシリティマネジメントの領域へ

ダイキョウクリーンの考え方

株式会社ダイキョウクリーンは業務用厨房に設置されているグリストラップ(油脂分離阻集器)清掃、ビルや施設の排水管、貯水槽など水回りの衛生維持管理サービスを行っています。飲食業界のインフラを支える「なくてはならない企業」をめざし、2016年には関東支社を開設、全国展開のチェーン店にもワンストップで対応できる体制を整えました。近年は、グリストラップ清掃だけでなく、排水管の高圧洗浄や雑排水槽の清掃などにサービスを拡大し、様々なご希望にお応えしております。今後はこれまでの経験と実績を活かし、ビルや施設の環境を総合的に管理するファシリティマネジメントの領域をめざすことで、地球環境負荷の低減と衛生安全に貢献していきたいと考えています。



会社概要

資本金:80百万円
従業員:40名

代表取締役社長
津田 政房

ダイキョウクリーンの事業

グリストラップ清掃

グリストラップとは「油脂分離阻集器」のことで、業務用の厨房から出た汚水の中から野菜くずや残飯を金網状のバスケットで集め、グリース(油)が下水に流出するのをトラップする(止める)装置です。飲食店では油を含む汚水が配管設備を傷めないよう油分の分離処理が義務付けられていますが、グリストラップは水に油を浮かせることで油分を分離し、下水に油が流出することを防ぐ役割があります。そして、水に浮いてしまった油は定期的な清掃が必要で、怠ると悪臭や害虫の発生の原因になります。飲食店の厨房などに設置されているグリストラップの汚れを定期的に取り除くことで、衛生環境の改善や水質汚染を防止、排出される汚泥の低減に貢献しています。



排水管清掃・詰まり解消

排水管の詰まりは、近隣施設への被害や営業のストップ、損害賠償などさまざまなリスクを引き起こします。当社は、専用の高圧洗浄車やポータブル洗浄機を保有し、詰まらせないための定期清掃や、万が一の際の排水管の清掃にも対応しています。

貯水槽・排水槽清掃

ビル、商業設備の貯水槽や地下、工場等に設置されている各排水槽(雨水槽、湧水槽、雑排水槽)の清掃や汚泥(産業廃棄物)の処理を承っております。測定器や送風機の使用などで有資格者による作業を行い、安全の確認・維持を徹底しております。

施設の衛生管理

ビル、商業設備などのダクト清掃、店内清掃、床洗浄、空調清掃など、施設の衛生管理を総合的に行っております。大型施設にも対応しており、定期的なメンテナンスを行うことで施設の維持に貢献し、効率的な施設経営をご提案します。

ダイキョウクリーンの5つの強み

2021年度はお客様のニーズを見直し、飲食業界だけでなく、大型施設や病院、ビルなどの衛生管理の総合的なサポートへとサービスを拡大させました。今後も「選ばれる企業」としてお客様のニーズに応えられるよう、エリアやサービスを拡充させていきたいと考えています。

強み 1 自社作業実績 年間2万件以上

1 自社で年間2万件を超える作業実績を誇ります。豊富な事業実績で積み上げた技術力とノウハウで、あらゆる施設のニーズに対応できることが当社の強みです。飲食業界のグリストラップ清掃はもちろん、大型ショッピングモール、空港、病院などの排水管や貯水槽の清掃、補修などサービスも拡大しています。

強み 2 法令順守による適正処理の徹底

2 企業は廃棄物を適正に運搬・処理するだけでなく環境保全や環境負荷の低減をも考慮した姿勢が求められています。当社では清掃時に回収した油や食品残さは産業廃棄物としてすべて適正に処理し、業務完了後にそれを証明するマニフェスト伝票を発行しています。コンプライアンスを重視した当社の取り組みは、大手ファミリーレストランなどの飲食店をはじめ、複合施設、ホテル、百貨店と様々なお客様からご好評いただき、リスク管理意識の高い企業に選ばれています。

強み 3 「クレーム件数ゼロ」を追求

3 当社は、すべての作業でサービス品質の維持に努めています。清掃を手がける従業員はすべて社内研修を受けており、清掃器具の搬入から清掃、マニフェスト伝票の発行、搬出にいたるまで、凡事徹底のもと丁寧な仕事を心がけています。

強み 4 大型複合施設の高層階や地下階にも対応

4 対応が難しいとされるビルや大型複合施設の高層階や地下施設の店舗にも対応しています。あらゆるニーズに対応するため、高圧洗浄車をはじめ、各種バキューム車、ポータブル洗浄機材などを揃え、お客様の要望にきめ細かく応えます。



3tバキューム車17台、7tバキューム車2台、高圧洗浄車2台、2t平ボディトラック2台と、多くの作業車両を保有しています

強み 5 全国規模のチェーン店にもワンストップで対応

5 全国にサービスエリアを拡大させており、現在、関西・関東を拠点に、サービス提供地域は計14都道府県におよびます。また、大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県、岡山県、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県、群馬県、栃木県と幅広いエリアにおいて産業廃棄物収集運搬許可を保有しております。事業規模を全国とすることで、複数店舗を持つ企業や全国展開の大手チェーン店にも窓口ひとつで対応、情報を一元管理し、業務の効率化にも貢献しています。



2022年4月

横浜に 横浜事業所を 開設!

当社は、2016年に関東事業所を開設して以来、地道な努力で関東での市場を広げてきました。そしてこの度、関東で2拠点目となる横浜事務所を開設し、関東のお客様によりきめ細やかなサービスを提供できる体制となりました。信用と実績をこれからも積み上げ、関東地域のお客様に貢献していきたいと考えています。



株式会社大栄衛生

西宮市のごみ収集事業

会社概要

資本金:10百万円
従業員:62名

代表取締役社長 森下 和尚



株式会社大協

伊丹市のごみ収集事業 人材派遣業

会社概要

資本金:6百万円
従業員:70名

代表取締役社長 平井 里美



自らの事業を「市民サービス」と捉え、「事業継続」を使命に市民生活に貢献

大栄衛生・大協の考え方

株式会社大栄衛生は西宮市で、株式会社大協は伊丹市で、一般廃棄物収集運搬の許可を受けた適正業者として、家庭ごみ・事業ごみの収集運搬や家庭系粗大ごみの回収業務を手がけています。創業以来、顧客と地球環境を第一に考え、環境負荷を低減する処理方法やごみの減量をテーマに事業を展開してきました。私たちは日頃より自らの事業を「地域の人々の快適な暮らしを支えるサービス業」と捉え、よりよいサービスの提供をめざしておりますが、新型コロナウイルス感染症の流行拡大という非常事態を経て、私たちの事業が「市民生活のためにいかなる状況下においても継続しなければならない社会インフラである」ということを再認識しました。エッセンシャルワーカーとして社会基盤を支え、地域社会に貢献できる企業でありたいと考えています。

大栄衛生・大協の事業

法人向けサービス

事業系一般廃棄物の収集運搬

事業所（飲食店、スーパーマーケット、オフィスなど）から搬出される一般廃棄物を定期的に回収し、市の処理施設に搬入します。また、西宮・伊丹市外の工場などから排出される産業廃棄物、医療機関などから排出される感染性廃棄物などの収集運搬も行っています。引越し時のオフィスや工場の不用品、粗大ごみの処分なども行っています。

産業廃棄物収集運搬

あらゆる産業廃棄物を迅速・安全に収集し、中間処理施設や最終処分場に運搬します。業務の効率化を図るため、電子マニフェストを導入しています。また、多彩な車両や専用コンテナを保有し、お客様のニーズに的確にお応えしています。

個人向けサービス

家庭系粗大ごみの回収

家庭の粗大ごみの回収を行っています。玄関や階段が狭くて運び出せないといった危険を伴う搬出作業や、大量の不用品を一気に処分したいというニーズにプロがお応えします。

行政委託サービス

市のごみ収集を受託

西宮市・伊丹市のごみの収集運搬を行っています。私たちはこの事業を「市民サービス」と捉え、地域に根ざしたサービスで社会に貢献し、より良いまちづくりのお手伝いをしたいと考えています。

大栄衛生・大協の取り組み1

「廃棄物計量システム」と「従量課金制」

ごみを積み込むだけでその重量が計測できるスケールパッカー車と、顧客のごみの量をデータ管理する「廃棄物計量システム」を導入しています。ごみ収集量を「見える化」し、収集量に応じて料金を課す「従量課金制」を採用することで、顧客のごみの減量への意識向上と処理費用の経費削減に貢献しています。



ここに重量が表示されます

大栄衛生・大協の取り組み2

BCP（事業継続計画）の策定と実行

株式会社大栄衛生・株式会社大協は、近年の自然災害や新型コロナウイルス感染拡大など、サービスの遂行を妨げる事案に対してBCP（事業継続計画）の策定と実行に注力し、「いかなる時も市民サービスを止めない体制」を整えています。

伊丹市では、株式会社大協をはじめ同業者8社が協力し、非常時のマニュアルや行政との連絡網の作成に取り組み、体制を整えました。

大栄衛生・大協の取り組み3

「市民サービス」としての意識向上

市民の方々との挨拶やコミュニケーションはかねてから私たちが大事にしてきたことですが、コロナ禍でエッセンシャルワーカーとして社会から注目されるようになったことを機会に、社員一同、さらなるサービスの向上をめざしています。「大栄衛生、大協の人に会うと朝から気持ちがいい」と言っていたような会社をめざします。

TOPICS 1 関西初の女性によるごみ収集チーム「さくらチーム」

2017年に株式会社大栄衛生で発足した女性によるごみ収集チーム「さくらチーム」。2台の「さくら号」が西宮市内の家庭ごみを収集しています。「残業がないので家事や子育てとの両立がしやすい」「地域の人とのコミュニケーションが楽しい」「運動にもなるので健康的」とスタッフの定着率も高く、さくらチームの明るさは社内の活気の源でもあります。西宮市内でピンクのパッカー車を見かけたら、ぜひ気軽に声をかけてください。



TOPICS 2 西宮市内小学校でのごみと資源についての「出前授業」

株式会社大栄衛生では、西宮市内の小学校や高校で出前授業を行っています。実際にパッカー車の実物を身近に見てもらい、機能の説明やごみ袋の投げ入れ体験を行うことで、家庭ごみの出し方・分け方のマナー、リサイクルや環境問題などについての興味を深め、学びの機会を提供しています。



市民サービスに貢献！

環境ビジネスを通して、市民生活を支えます

お客様の期待に応えるだけでなく、
期待を超えることで成長していきたい

株式会社大栄衛生 営業課 係長

奥野 智一

私は26歳まで建築現場で働いていましたが、景気に左右されない業界に魅力を感じて転職しました。最初は現場で家庭ごみの収集を担当していましたが、その時肌で感じたのは、大栄衛生も大協も地域の老舗企業で、市民のみなさんから「大栄衛生、大協ならここまでしてくれるだろう」と常に期待されているということです。そして、私たちにとってその期待は非常に心地よく、その期待を超えていくことが成長だと感じています。

10年目にして営業に配属になり、マナー教室に通うところからのスタートでしたが、今度は担当のお客様の期待に応え、期待を超えていくことが私の使命です。要望をしっかり伺って適切な廃棄物処理を提案する。そのためには廃棄物処理についての専門的知識が必要なのですが、廃棄物処理は奥が深く入社20年になる今でも日々勉強です。社内には私より知識が豊富な社員がたくさんいますが、それでも「ごみのことなら奥野に聞いてみよう」と思っただけのような、困った時にお客様に頼られる営業でありたいと思っています。

市民のみなさんの温かさに
仕事のやりがいを感じます

株式会社大栄衛生 第一事業部 助手

石井 凌

私は、営業で電化製品の訪問販売をしていました。最初は気軽な気持ちで大栄衛生に入社したのですが、市民の方にマスクや飲み物を差し入れしてもらったり、お手紙をいただいたり、「ありがとう」と声をかけていただいたり目に見えて感謝される毎日で、「いい仕事だな」と感じています。毎日カラスの番をしてくれる人と挨拶したり、毎回遅れてごみを持って来る人に「大丈夫ですよ」と声をかけたり、逆にその人が来ない日はちょっと心配したり。そんな日常のコミュニケーションがこの仕事のやりがいです。

思えば小さい頃、パッカー車に一回乗ってみたいと憧れていました。今私の横で運転しているドライバーの先輩は、コースを熟知していて、高度な運転技術とセンス、注意深さで、とても自分にはできそうもありません。私は、今の助手の仕事が気に入っているので、このまま助手の仕事を追いかけていければと思っています。4月からコースの変更もあったので、新しい人やまちとの出会いを楽しんで仕事をしていきたいです。

業界の人材不足に貢献！

エッセンシャルワーカーに特化した人材派遣事業

株式会社大協 キャリア事業部



環境ビジネス業界に特化した人材派遣事業「G career (ジーキャリア)」。人材不足という業界が抱える慢性的な課題の解決を掲げ、2017年にスタートしました。環境ビジネスに携わってきた長年の経験を活かし、エッセンシャルワーカーの育成から人材派遣、紹介、請負契約事業までをサポートしています。

事業開始以来、環境ビジネスドライバーや作業スタッフの安定した数の人材を確保し、派遣先の企業数も年々増加、新事業として着実に成長を続けてきました。特にコロナ禍では「エッセンシャルワーカー」が社会から注目されたことで、環境ビジネスが「社会性のある仕事」であること、社会情勢や景気に左右されない「安定した仕事」であることが認知され、他業界から多くの転職者が流入、業界の人材採用と育成に大きく貢献しました。

今後は、業界の人材育成から研修、定着率の向上、労働環境改善まで広くサポートすることで業界の人事労務管理に貢献したいと考えています。

業界未経験の人材を育成するG careerの研修カリキュラム

当社の環境ビジネス人材派遣事業の大きな特徴は、「業界未経験者を育成する研修体制」を整えているということです。業界未経験者を育成し、即戦力として派遣できるこの仕組みは、今回のコロナ禍において他業種からの未経験人材の受け入れを可能としました。

ドライバー10日間、助手5日間の研修カリキュラムを用意しております。研修には、直接の業務にかかわる運転技術や安全教育はもちろん、仕事に対する姿勢やマナー研修も取り入れ、環境ビジネス業界と地域社会に貢献する人材の育成をめざしております。



安全教育

法令遵守の徹底、車両点検の重要性など、環境ビジネスドライバーに必須の安全教育を行います。



運転教育

エコドライブ、狭路運転、巻き込みや過積載の危険性、駐車の際の注意点を徹底的に指導します。



実地研修

実際のルートに沿って運転を行い、収集現場にて作業を行います。

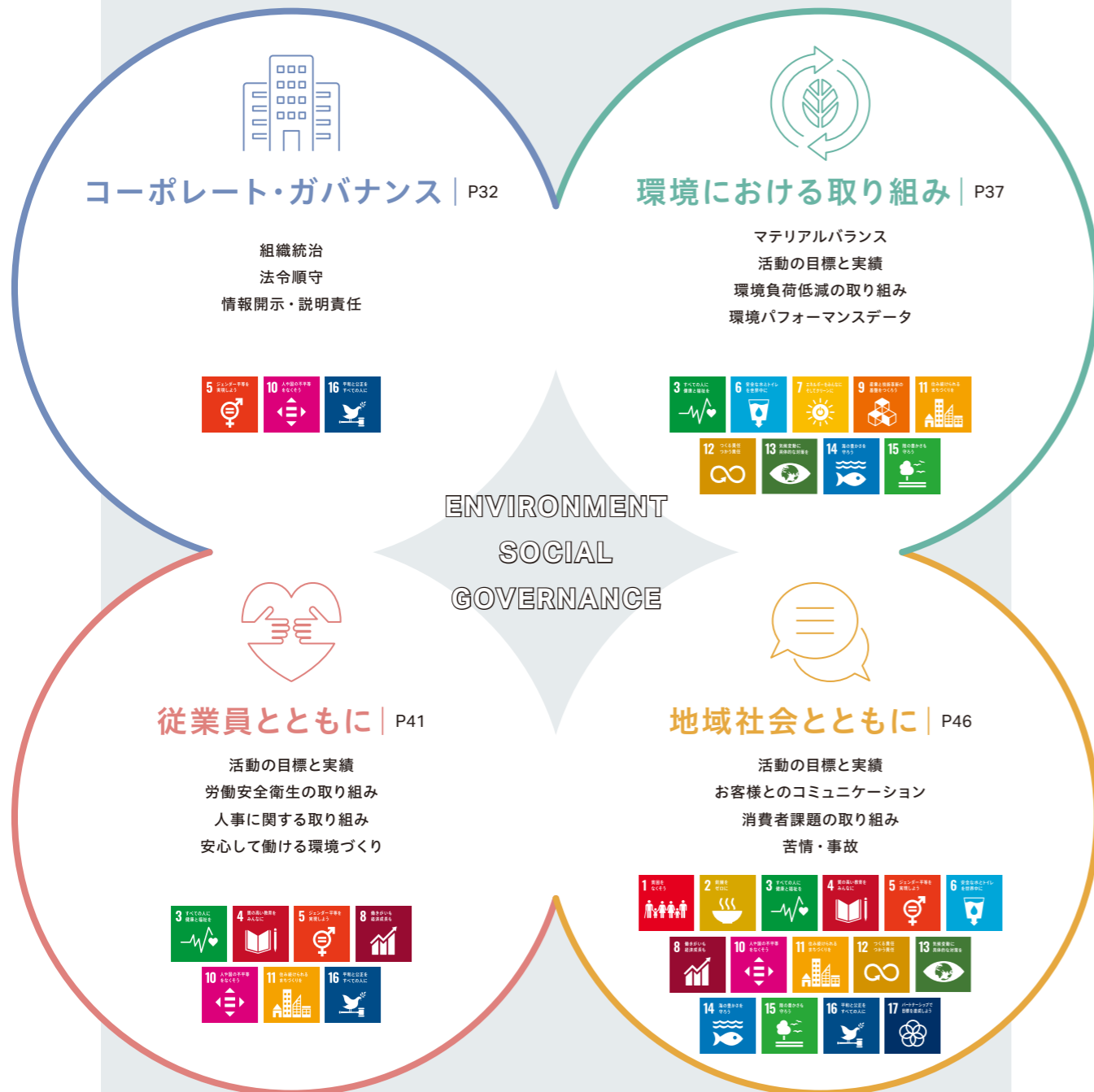


カリキュラム研修

当社オリジナルの座学研修を個人のレベルに合わせて段階的に行います。

ESGの取り組み

当社グループは創業以来、地域の暮らしと産業が抱える課題に真摯に応えることを使命に事業を展開してまいりました。また、社会とともに歩む企業グループとして社会的責任を果たすことを心がけております。コーポレート・ガバナンスの強化はもちろんのこと、環境、社会の経営課題に長年にわたって取り組み、一歩ずつ前進してまいりました。今後もこれまで培ってきた経営基盤のもと、社会と産業における新たな課題の解決に向けて注力してまいります。



コーポレート・ガバナンス

健全で透明性の高い経営に向けた取り組みを強化し、ステークホルダーのみなさまの信頼に応えてまいります



基本的な考え方

グッドホールディングスグループは、法令を順守し健全で透明な企業経営を行うことを基本に、「事業」を通じて優れたサービスを提供することにより、社会の発展に貢献するとともに、ステークホルダーからの期待と信頼に応えることを基本的な考えとしています。

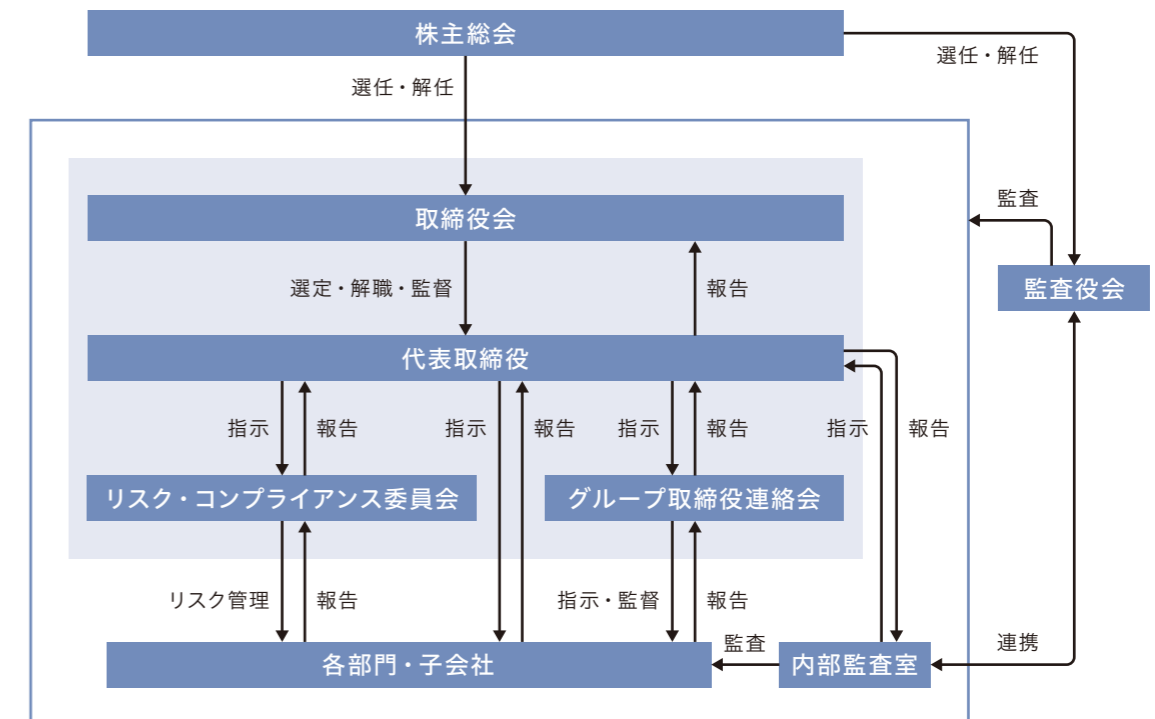
組織統治

経営管理体制

「透明性の確保」「円滑な業務遂行」を重視しています

当社グループは、すべてのステークホルダーから安心・信頼される企業グループであり続けるため、健全で透明性の高い事業および経営に努めています。また、グループ全体の持続的成長および中長期的な企業価値向上をめざし、コーポレート・ガバナンスの構築、強化に努めています。

コーポレート・ガバナンス体系図



その他の会議体

各社事業会議／定例会 会社の方針や課題について協議することで、円滑な業務執行を図っています。

取締役会

経営の重要な意思決定と
取締役の業務執行の監督を行います

当社の取締役会は8名（うち社外取締役1名）により構成されており、経営の重要な意思決定と各取締役の業務執行の監督を行っております。また、独立性の高い社外取締役より、客観的な提言および助言を得ております。

リスク・コンプライアンス委員会

総合的なリスク管理と
コンプライアンスの徹底に取り組みます

月に1回開催する当委員会は、グループ代表取締役社長を委員長とし、監査役、子会社代表取締役社長、取締役および委員長から指名された委員で構成されています。会合では潜在的・顕在的なリスクやコンプライアンス違反などについて協議・検討し、総合的なリスク管理に努めるとともに、研修教育を行い、企業の社会的責任とコンプライアンスの徹底に取り組んでおります。

リスク・コンプライアンス委員会では2021年度において、下記のような議題について報告、協議などを行ってまいりました。




反社会的勢力のチェック	販売先や取引先が反社会的勢力でないかのチェック状況の報告および課題についての協議
労務管理	時間外労働時間の実績（単月、累積）、入退社数の状況、有給休暇の取得状況などの報告および課題についての協議
内部監査報告・改善状況報告	実施した監査内容の報告および改善状況の報告
教育研修	研修の計画および実施 2021年度は前年度に続き新型コロナウイルスの影響もあり、オンライン研修を中心に実施いたしました ・独占禁止法について（役職者および該当事業会社の担当部署） ・コンプライアンス経営、情報セキュリティ、ハラスメントについて（管理者向け、全従業員向け） ・ストレスマネジメント（管理者向け） ・健康管理：生活習慣病予防（全従業員向け） ・労務管理の基本（管理者向け）
事故報告	各社で発生した事故（車両や設備などでの事故および情報システム障害やセキュリティ事故含む）の概要および防止策などの報告
その他	・新型コロナウイルス感染防止対策実践内容の共有 ・新型コロナウイルスやインフルエンザのワクチン接種状況の共有と推進 ・人事労務関連法令の改正状況の共有 ・関連する規程やマニュアルの制定や改定について協議および共有

監査役会

業務執行の監視、監督を行っています

当社の監査役会は、常勤監査役1名、社外監査役2名によって構成し、監査役会規程に基づき原則毎月1回開催し、重要事項について報告、協議、決議を行っております。社外監査役2名は、それぞれ弁護士、公認会計士で、専門的見地と独立した立場から監査を行っております。取締役会のほか、グループ取締役連絡会などの重要な会議に出席し、重要な意思決定の過程および業務の執行状況の把握に努めるとともに、必要に応じて取締役に対して勧告などを行い、是正を求めています。

VOICE

グッドホールディングス
株式会社
常勤監査役

八鳥 尚志

グッドホールディングス
株式会社
社外監査役

上田 憲

グッドホールディングス
株式会社
社外監査役

南方 得男

監査役は監査役会として監査意見を表明するほか、監査役個人としても様々な意見を表明します。取締役会への出席は監査役の義務でもありますが、これが対面であれ、リモートであれ、監査役が積極的に取締役に出席する理由です。

当社グループの取締役会は2時間から3時間かけて行います。議長は代表取締役で、役員の意見を聴き、議事を進行します。事前にグループ取締役連絡会がありますので、取締役に社外取締役と社外監査役の発言が多くなります。

事前に配布される資料には目を通します。また、取締役会の開催前に担当部署と質疑を行うこともあります。事実と背景を確認して提案者の意図を知るためです。公認会計士という職業柄、特に決算数値とその説明文書には準備の時間をかけます。その際、不整合はないか、会計基準や税法にそぐわないものはないか、当社グループの経営理念と矛盾がないか検討します。そして、事前の確認内容と取締役会での説明や議論を照らし合わせて、より理解を深めます。取締役会では、適法性の確認はもとより、より好ましい対応や是正して欲しいこと、あらかじめ考えておくべきことを伝えます。

社外監査役に就任して3年が経ち、役員のお人柄もわかるので、以前は少々緊張感が勝っていましたが、最近では活発に発言し議論しています。今後は、取締役会をもっと活性化させることが責務だと考えています。

内部監査部門による監査

内部監査による検討評価、助言・提案、
フォローアップ監査を徹底しています

内部監査室は代表取締役の直轄部署として設置され、当社グループの会計、業務、コンプライアンス、情報システムおよびリスク管理など専門的な知識をもって、効果的な監査を実施できる体制を整えています。内部監査結果については、内部監査報告書として取りまとめ、改善を要する事項が発見された場合には、助言・提案を行うとともに、被監査部門による改善状況をフォローアップ監査により確認しています。

また、内部監査の実施状況は当社グループ全役員も参加するリスク・コンプライアンス委員会で報告し、委員会メンバーと共有しております。

グループ取締役連絡会

グループ全役員による連絡会で
協議を行います

グループ全役員および監査役、内部監査室長で構成され、月に1回開催しております。各社の業績報告や決議事項についての協議を行い、グループ内の共通認識を図る機関として運営しております。

業績報告会

全従業員に業績をオープンにしています

売上高や利益高などを報告する業績報告会を、グループ各社ごとに毎月1回行っております。この業績報告会では、役職者だけでなく、一般社員やアルバイトなどすべての従業員を対象としており、全社や各部門の収益状況、その分析などが報告されます。会社の業績をオープンにし、従業員が経営状況を正しく理解することにより、事業運営への参画意識が高まり、経営課題や業務の改善につながっております。

内部通報制度

不正行為の未然防止、早期発見を図っています

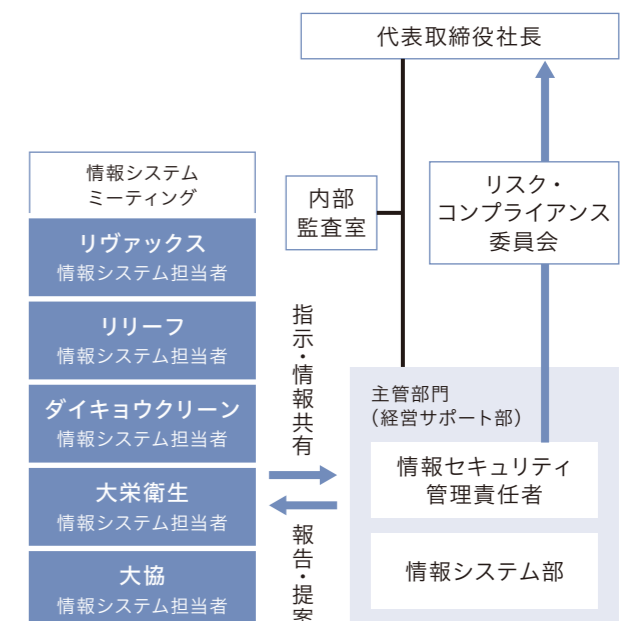
当社グループでは、法令違反、規程違反、社会通念に反する行為などを早期に発見し、不正行為を未然に防ぐとともに必要な改善を図り、コンプライアンス経営の推進を目的として、内部通報・相談窓口（グッドホールディングス・ヘルプライン）を設置しております。通報・相談窓口は、社内と社外の両方に設置し、匿名での通報や組織的な問題に関する通報を行いやすいよう配慮した制度になっております。

情報システムセキュリティ体制

事業活動において取り扱う情報資産の保護を
私たちの責務と捉え、サービスの継続的な提供と
健全な事業の発展に努めています

当社グループの取り扱うさまざまな情報資産に対する、漏洩や改ざん、紛失などのリスクを回避・低減するため、「情報セキュリティ安全管理規程」ならびに「IT管理規程」を定め、情報セキュリティにかかわるリスク管理を行っております。また、規程の管理・運用は各社の情報システム担当者が担い、定期的に行われるミーティングやリスク・コンプライアンス委員会で、組織全体の情報セキュリティ体制を常時見直し、徹底した情報資産の保護・管理に努めております。

情報システムセキュリティ体制



法令順守

法令順守状況

2021年度も重大な違反はありませんでした

グループ各社ごとに順守すべき法令を特定し、その順守に努めています。また、法令で定められた時期に行政へ必要な報告をしているか、法令に則った運用が適正に行われているかなどを、適宜確認しています。

2021年度においても、前年度に引き続き重大な違反はありませんでした。

事業に関する主な法令(抜粋)

法令	内容
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の処理基準、マニフェスト伝票の交付と管理、委託契約書の締結と管理、収集運搬車両への表示と書面の備え付けなど
大気汚染防止法	NOx、ばいじんなどの排出基準
下水道法	排水の下水道放流基準など
騒音規制法 振動規制法 悪臭防止法	騒音、振動、悪臭基準
道路交通法	走行速度、停車・駐車禁止、過積載の禁止
道路運送車両法	自動車の点検および整備義務
エネルギーの使用の合理化等に関する法律	エネルギーの使用状況報告、管理員の選任など
地球温暖化対策の推進に関する法律	温室効果ガスの算定と報告
労働安全衛生法	安全確保の措置、安全衛生推進者の選任と周知、清掃の実施など
酸素欠乏症等防止規則	濃度測定、保護具・避難用具の常備と点検など
消防法	消防計画の策定、訓練の実施、消防設備の点検など
西宮市との環境保全協定	大気・悪臭などの測定方法や回数など

順守評価の実施

「順守評価記録」を活用し、法改正にも迅速に対応しています

当社グループに適用される法令は法的要求事項として一覧にまとめ、「順守評価記録」で管理しています。この記録に従って、法的要求事項が守られているかを評価するとともに、万一、違反が発見された時は是正処置を行う手順を確立しています。事業にかかわる法改正については、当該記録項目を改訂するとともに、必要な対応とあわせて関連部署に伝達し、社内に展開しています。

法令	項目	評価	備考
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	マニフェスト伝票の交付と管理	○	
	委託契約書の締結と管理	○	
大気汚染防止法	NOxの排出基準	○	
	ばいじんの排出基準	○	
騒音規制法	騒音基準	○	
	振動基準	○	
悪臭防止法	悪臭基準	○	
	悪臭防止措置	○	
道路交通法	走行速度	○	
	停車・駐車禁止	○	
道路運送車両法	自動車の点検	○	
	整備義務	○	
エネルギーの使用の合理化等に関する法律	エネルギーの使用状況報告	○	
	管理員の選任	○	
地球温暖化対策の推進に関する法律	温室効果ガスの算定	○	
	報告	○	
労働安全衛生法	安全確保の措置	○	
	安全衛生推進者の選任と周知	○	
酸素欠乏症等防止規則	濃度測定	○	
	保護具・避難用具の常備と点検	○	
消防法	消防計画の策定	○	
	訓練の実施	○	
西宮市との環境保全協定	大気・悪臭などの測定方法	○	
	回数	○	

順守評価記録

過積載の防止

お客様の廃棄物重量と車両の最大積載量を毎回照合しています

産業廃棄物の収集運搬を行う株式会社リヴァックスでは、毎回取得しているお客様の廃棄物重量データと車両の最大積載量を照合し、過積載の防止に努めています。積載量を超過した場合は、お客様に報告して一緒に原因を考え、その対策を講じています。

処理前契約締結の徹底

お客様との事前契約締結を徹底しています

産業廃棄物の処理を委託および受託する際には、委託契約の締結が法律により定められています。当社グループでは、契約書の事前締結を徹底し、締結されないまま処理を受託する法律違反を防止しています。とりわけ、産業廃棄物事業を主体とする株式会社リヴァックスでは、取引開始前にお客様情報を登録し、定期的に関係者で締結確認を行うことにより、処理前の契約締結に努めています。

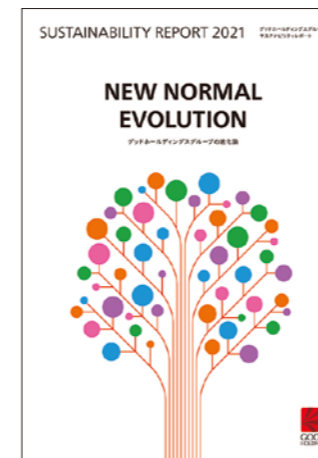
情報開示・説明責任

サステナビリティレポートの発行

事業活動だけでなく、社会や環境への取り組みをお伝えするコミュニケーションツールとして、毎年発行しています

廃棄物処理事業そのものや、当社グループの取り組みを広く知っていただきたいの思いで、株式会社リヴァックスは2002年から、株式会社大栄衛生および株式会社大協は2008年から報告書を発行してまいりました。2015年からはグループ統括で毎年発行しております。

今後もステークホルダーの皆さまと私たちを結ぶ重要なコミュニケーションツールとして、引き続きその充実に努めてまいります。



産廃情報ネットでの情報開示

優良産廃処理業者認定制度に沿って情報を公開しています

2011年度に産廃処理業者優良性評価制度が大幅に改定され、新たに「優良産廃処理業者認定制度※」が創設されました。グループ各社で兵庫県や大阪府をはじめ、複数の自治体の適合認定を受けています。同制度の事業の透明性に係る基準に沿って、当社グループの許可内容や財務諸表などの情報を、公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団が運営する「産廃情報ネット」に公開しています。

※優良産廃処理業者認定制度：5つの基準 ①遵法性 ②事業の透明性 ③環境配慮の取組 ④電子マニフェスト ⑤財務体質の健全性)すべてに適合する優良な産廃処理業者を都道府県・政令市が認定する制度。

[産廃情報ネット] <http://www.sanpainet.or.jp/>

メールニュース・Webでの開示

活動報告、活動状況などを掲示・メール配信しています

毎月、グループ各社の最新の活動報告やセーリングチームの活動状況などをWebサイト (<https://www.goodhd.co.jp/>) にて掲載しております。また、各社が自社の活動報告やイベント告知をお知らせするほかに、グループ共通で展示会・セミナーの案内などをメールニュースにて配信しています。これ以外にも月1回、株式会社リヴァックスでは「廃棄物・リサイクル関連法の最新情報」として、法改正の状況や行政が主催する案内を配信しています。



Webサイト



メールニュース

環境における取り組み

全グループを挙げて、事業活動における環境負荷の低減に努めています

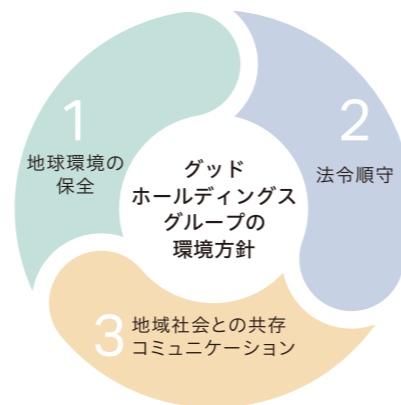


基本的な考え方

地球環境を守り、社会の持続的な発展に貢献していくことは私たちの責務です。グッドホールディングスグループは、地球環境の保全、法令順守などへの取り組みを継続し、事業環境にともなう環境負荷の低減などに努めています。

マテリアルバランス

2021年度における事業活動に必要な資源・エネルギーなどの投入量 (INPUT) と二酸化炭素 (CO₂) などの環境への排出量 (OUTPUT) は次のとおりです。INPUTとOUTPUTを把握したうえで、資源の有効活用および環境負荷の低減に取り組んでいます。



INPUT

エネルギー

電気	3,195千kWh	前年度比 1% ↑
都市ガス	60,335 m ³	前年度比 16% ↓
軽油	26,156 ℓ	前年度比 26% ↑
軽油	641,179 ℓ	前年度比 7% ↑
天然ガス	8,504 Nm ³	前年度比 41% ↓
電気	197 千kWh	前年度比 1% ↑
都市ガス	469 m ³	前年度比 16% ↓
ガソリン	28,163 ℓ	前年度比 12% ↓

水資源

上水道	6,687 m ³	前年度比 14% ↑
工業用水	61,281 m ³	前年度比 2% ↓

GOOD HOLDINGS

OUTPUT

CO₂排出

電気	1,511 t-CO ₂	前年度比 40% ↑
都市ガス	136 t-CO ₂	前年度比 16% ↓
軽油	67 t-CO ₂	前年度比 26% ↑
軽油	1,654 t-CO ₂	前年度比 7% ↑
天然ガス	19 t-CO ₂	前年度比 41% ↓
電気	69 t-CO ₂	前年度比 5% ↑
都市ガス	1 t-CO ₂	前年度比 -% →
ガソリン	65 t-CO ₂	前年度比 12% ↓

水域への排出

排出量	50,336 m ³	前年度比 9% ↓
-----	-----------------------	-----------

→ 公共下水道への排出量
※排水の一部はリヴァックスの冷却塔で蒸発

二酸化炭素 (CO₂) の排出係数
 参考データ (環境省) 供給された電気 (関西電力) 0.000351t-CO₂/kWh、(シン・エナジー) 0.000473t-CO₂/kWh
 軽油 (単位発熱量) 37.7GJ/kl (排出係数) 0.00258tC/GJ 天然ガス (単位発熱量) 43.5GJ/千Nm³ (排出係数) 0.00222tC/GJ
 都市ガス (単位発熱量) 44.8GJ/千Nm³ (排出係数) 0.00223tC/GJ ガソリン (単位発熱量) 34.6GJ/kl (排出係数) 0.00232tC/GJ

※リヴァックスの中間処理・バイオマス燃料製造は、シン・エナジーの排出係数を利用しています。

活動の目標と実績

活動企業	2021年度目標	2021年度実績	結果	2022年度目標
リヴァックス				
処理・運搬におけるエネルギー使用量削減 (原単位あたり)	電気: 96.99kWh/t以下 燃費: 3.81km/ℓ以上	96.57kWh/t 4.18km/ℓ	○	前年度以下 前年度以上
オフィスにおけるエネルギー使用量削減	電気: 5.112kWh/月以下 燃費: 22.38km/ℓ以上	4,896kWh 22.62km/ℓ	○	前年度以下 前年度以上
安心・信頼される廃棄物処理サービスの追求	お客様、周辺地域からの苦情件数ゼロ 悪臭・排水処理施設の自主基準値順守	10件 臭気測定・排ガス: 基準値内 排水の適正処理: 基準値内	× ○	お客様、周辺地域からの苦情件数ゼロ 悪臭・排水処理施設の自主基準値順守

リリーフ				
エネルギー使用量削減 (1時間あたり)	電気: 5.1kWh以下	6.0kWh	×	前年度以下
効率的な資源の使用 (燃費の維持)	ガソリン: 13.9km/ℓ以上 軽油: 6.9km/ℓ以上	13.5km/ℓ 6.7km/ℓ	×	前年度以上 前年度以上
環境負荷低減	事務所内の廃棄物減量: 854kg以下	799kg	○	前年度以下

ダイキョウクリーン				
エネルギー使用量削減 (1時間あたり)	電気: 5.1kWh以下	6.0kWh	×	前年度以下
効率的な資源の使用 (燃費の維持)	ガソリン: 5.53km/ℓ以上 軽油: 5.41km/ℓ以上	6.22km/ℓ 5.41km/ℓ	○	前年度以上 前年度以上
環境負荷低減	水の使用量削減: 731.9m ³ 以下 事務所内の廃棄物減量: 220kg以下	885.5m ³ 283kg	×	前年度以下 前年度以下

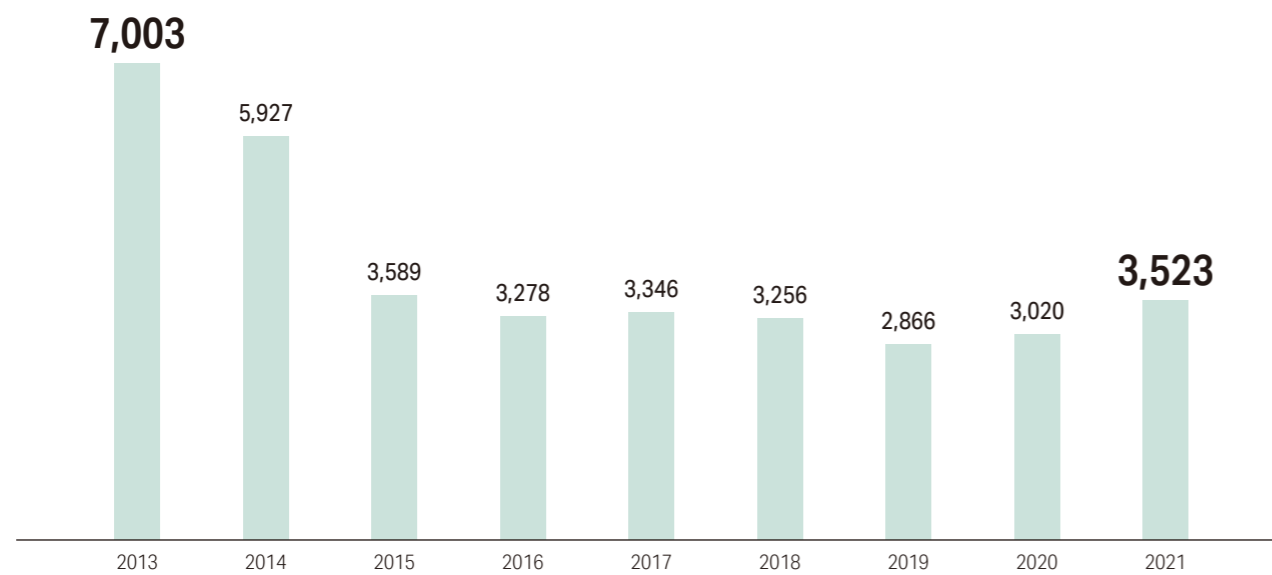
大栄衛生				
エネルギー使用量削減 (1時間あたり)	電気: 5.1kWh以下	6.0kWh	×	前年度以下
効率的な資源の使用 (燃費の維持)	ガソリン: 12km/ℓ以上 軽油: 2.86km/ℓ以上 天然ガス: 4km/Nm ³ 以上	12.0km/ℓ 2.78km/ℓ 4.04km/Nm ³	○	前年度以上 前年度以上 前年度以上
環境負荷低減	水の使用量削減: 2,544m ³ 以下 事務所内の廃棄物減量: 562kg以下 CO ₂ 排出量削減: 574,965kg-CO ₂ 以下	3,099m ³ 607kg 574,965kg-CO ₂	×	前年度以下 前年度以下 前年度以下
	グリーン購入の推進	コピー用紙などの対象品目の購入	○	継続的な実施

大協				
エネルギー使用量削減 (1時間あたり)	電気: 33,370kWh以下 ガソリン: 13.14km/ℓ以上 都市ガス: 98.6m ³ 以下	33,242kWh 14.28km/ℓ 107.2m ³	○	前年度以下 前年度以上 前年度以下
効率的な資源の使用 (燃費の維持)	コンテナ車: 4.36km/ℓの±3% 大型車: 2.52km/ℓの±3% 小型車: 3.26km/ℓの±3% 平ボディ車: 4.9km/ℓの±3%	4.67km/ℓ 4.97km/ℓ 2.56km/ℓ 3.35km/ℓ	○	前年度比±3% 前年度比±3% 前年度比±3% 前年度比±3%
環境負荷低減	水の使用量削減: 1,581m ³ 以下 紙の使用量削減: 155.25kg以下 事務所内の廃棄物減量: 349kg以下	1,672m ³ 155.25kg 355kg	×	前年度以下 前年度以下 前年度以下

グッドホールディングス				
エネルギー使用量削減 (1時間あたり)	電気: 5.1kWh以下	6.0kWh	×	前年度以下

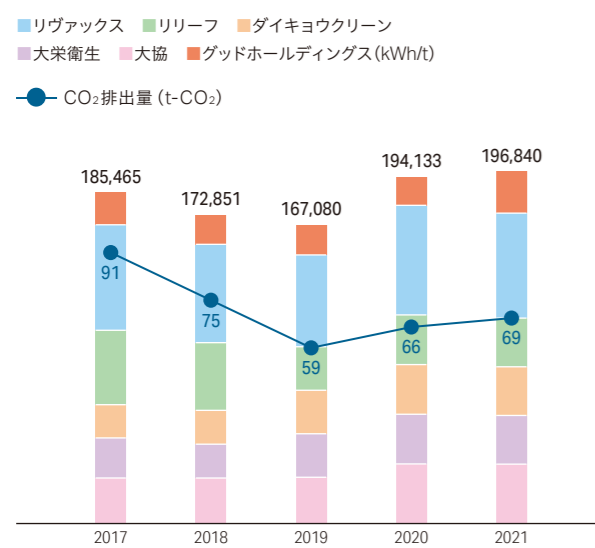
環境負荷低減の取り組み

CO₂総排出量 (t-CO₂)

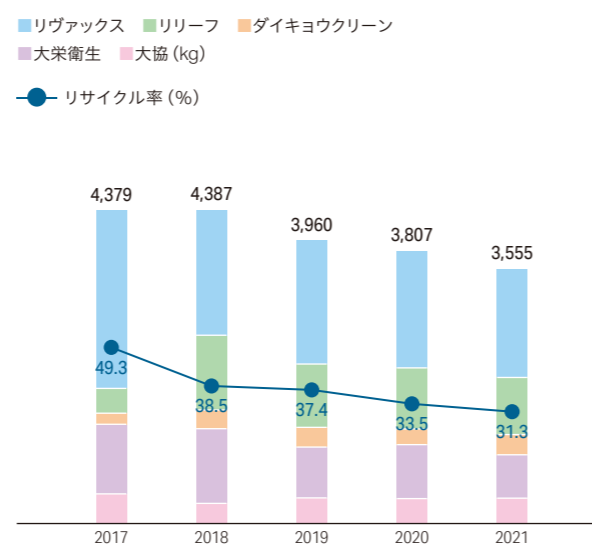


2021年に開催された気候変動サミットにて、日本は2030年度のCO₂削減目標を「2013年度から46%削減」と宣言しました。グッドホールディングスグループでは、(株)リヴァックスが2014年に新設したバイオマスボイラーを活用することで、2013年度に7,003t-CO₂だったCO₂排出量が2021年度には3,523t-CO₂と、50%の削減を実現しております。バイオマスボイラー新設後の削減率は横ばいですが、引き続き省エネルギー活動を実施し、脱炭素に向けた取り組みを進めてまいります。

オフィスの電気使用量

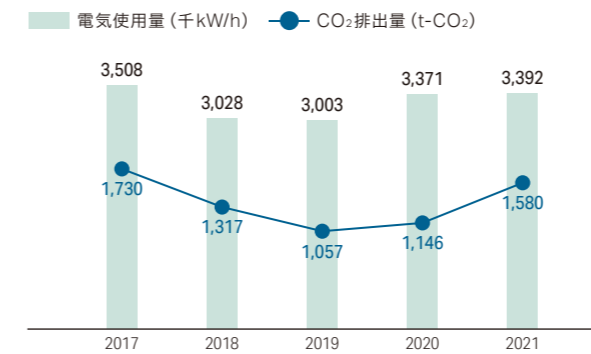


オフィスのごみ排出量

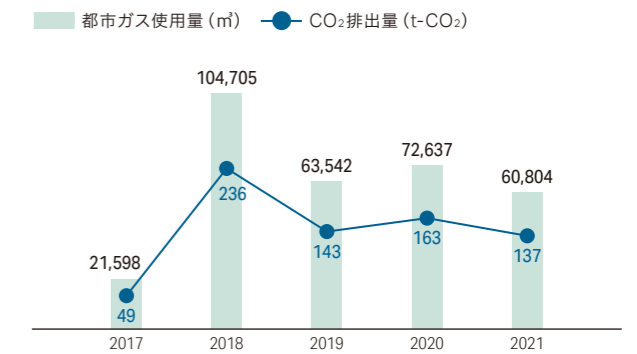


環境パフォーマンスデータ

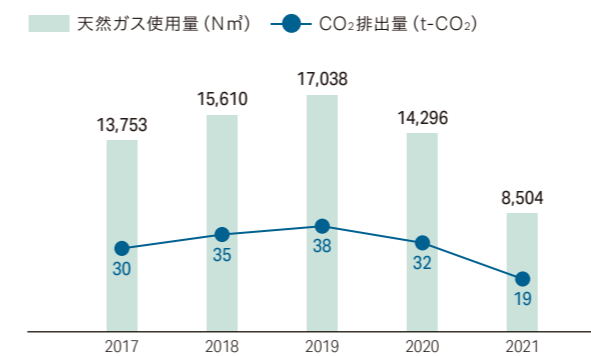
処理センター・オフィスの電気使用量



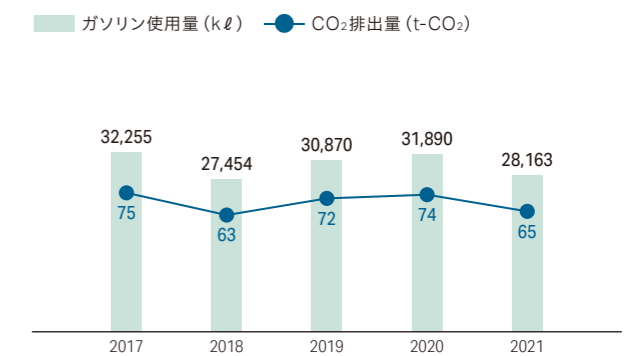
処理センター・オフィスの都市ガス使用量



天然ガス使用量

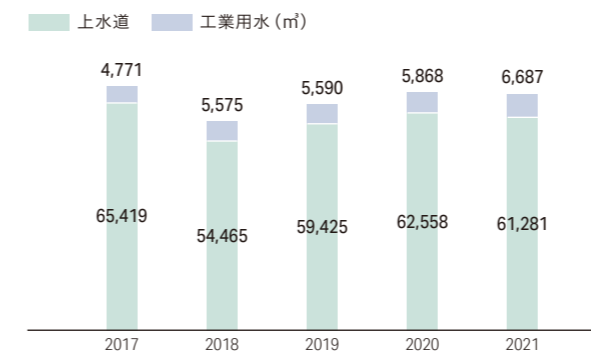


ガソリン使用量

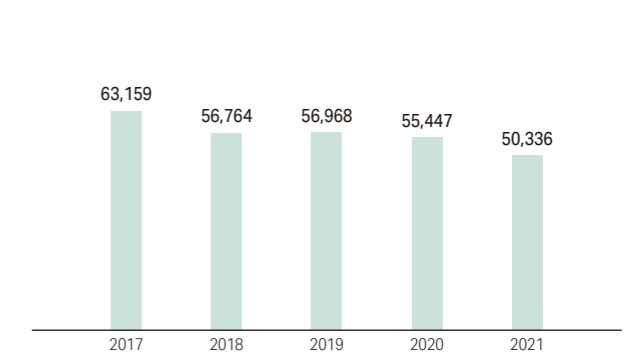


※2020年度までは大栄衛生のみだったが、2021年度よりリヴァックス追加

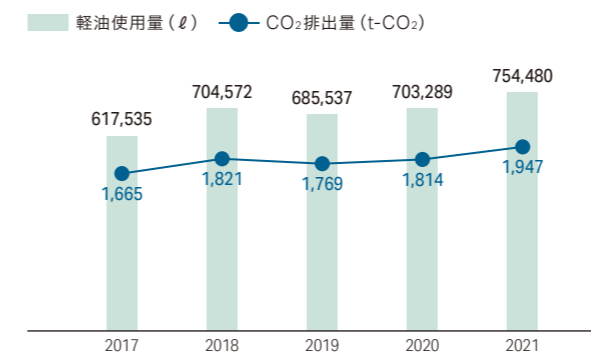
水使用量



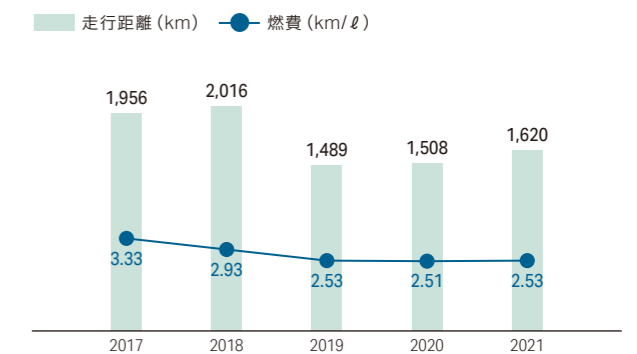
水域への排出量 (m³)



軽油使用量

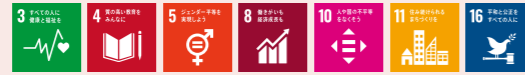


軽油の燃費



従業員とともに

一人ひとりが仕事に誇りと生きがいを持てる企業グループをめざして



基本的な考え方

グッドホールディングスグループは、あらゆる人の尊厳と人権を尊重し、その重要性と普遍性を認識しています。また、従業員一人ひとりの個性を活かし、ゆとりや豊かさを実感し、生きがいを感じて働ける職場環境づくりに取り組んでいます。

活動の目標と実績

[活動のテーマ] 社員ならびに従業員とその家族を含め、お客様のために働くすべての人たちが安心して働ける職場環境づくり

2021年度目標		2021年度実績	結果	2022年度目標	
リヴァックス	労働災害：0件	0件	○	0件	
	事故ゼロ	物損事故：11件以下 (前年度比50%以下)	24件	×	12件以下 (前年度比50%以下)
	安心して働ける 職場環境づくり	パトロールの実施：月1回 社内一斉清掃の実施：年2回	月1回実施 年2回実施	○	パトロールの実施：月1回 社内一斉清掃の実施：年2回
リリース	事故件数の削減	3件以下 (前年度比50%以下)	労働災害：2件 物損事故：6件	×	4件以下 (前年度比50%以下)
ダイキョウクリーン	事故件数の削減	2件以下 (前年度比50%以下)	物損事故：5件	×	2件以下 (前年度比50%以下)
大栄衛生	事故件数の削減	12件以下 (前年度比50%以下)	労働災害：3件 物損事故：6件 人身事故：2件	○	5件以下 (前年度比50%以下)
大協	事故件数の削減	9件以下 (前年度比50%以下)	労働災害：6件 物損事故：8件 人身事故：2件	×	8件以下 (前年度比50%以下)
グッドホールディングス ※グループ全体の数値を 記載しております	情報セキュリティ 事故件数	深刻、重大事故：0件 限定的、軽微事故：2件以下	0件 2件	○	深刻、重大事故：0件 限定的、軽微事故：2件以下
	情報システム 障害件数	深刻、重度障害：0件 限定的、軽微障害：6件以下	0件 0件	○	深刻、重度障害：0件 限定的、軽微障害：6件以下
	36協定違反：0件	0件	0件	○	0件
	有給消化取得5日以上：100%	取得率：100%	取得率：100%	○	100%

労働安全衛生の取り組み

リスクアセスメント/ヒヤリハット

毎年すべての作業工程におけるリスクを洗い出し、対策を講じています

株式会社リヴァックスでは、ISO45001(労働安全衛生マネジメントシステム)に基づいて、年1回、全社員ですべての工程におけるリスクアセスメントを行っています。2021年度は787件の危険源を抽出し、その中からリスクポイント

の高い危険源を222件特定し、リスク管理を実施しました。

リスクへの対策は、危険源となる作業や行為そのものを除去することを優先し、次いで危険源を隔離する(例：安全柵の設置)などハード面の対策、危険の見える化、そして手順の整備、教育訓練、保護具の着用という順で対策を講じています。また、事故に至らずともヒヤリハットの抽出も常時行っており、2021年度は244件でリスクアセスメントを実施しました。

ドライブレコーダーの活用

収集業務の全車両に搭載し、事故を未然に防ぎます

株式会社大栄衛生、株式会社大協では、業務で使用する全車両にドライブレコーダーを車両前後に搭載し、ドライバーの運転を管理しています。ドライバーが自身の運転特性を把握し、安全運転を意識すること、運転技量を向上させることを目的としています。また、運転時に生じたヒヤリハットを記録し、従業員への安全教育や改善指導に使用することで、交通事故の防止に役立っています。

さらに2021年2月からは一部の収集車両でリアルタイムに位置情報を把握し、収集ルートにおいて安全で効率的な運行や収集漏れ防止などに役立つシステムを試験導入し、検証を実施中です。



ドライブレコーダーの映像

環境・安全に対する対策

安全管理および廃棄物管理に関する研修に参加しています

廃棄物に関する基礎知識の習得、環境保全および労働安全に対する意識付けを目的とし、大阪府産業資源循環協会が実施している廃棄物管理士講習会に参加いたしました。また、廃棄物の収集・運搬課程についても知見を深めるため、産業廃棄物または特別管理産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会へも参加しております。

交通安全運転講習

作業員全員が安全講習を受講し、事故防止に取り組んでいます

当社グループは全体で約120台の業務車両を保有しております。事業を行う上で「安全」は最優先事項であり、グループを挙げて交通事故防止に取り組んでいます。安全運転を徹底するための教育の一つとして、清掃組合主催の交通安全講習会に作業に携わる従業員が全員参加し、事故の実例や普段見落としがちな危険について学んでいます。



交通安全講習会

5S活動の推進

「整理・整頓・清掃・清潔・躰」

きれいな職場を保つことが労働安全衛生につながるの考えのもと、これまでの3S活動に加えて、5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を推進しています。備品や工具類の使用頻度基準を定め、それをもとに必要な数および保管場所を決め、だれが見てもわかるよう「見える化」する、書類をデータ化し廃棄するなど、さまざまな手段を講じています。これらの活動は、仕事に使う備品や道具を探し回らなくなるなど、無駄な動きを減らし、生産性の向上にもつながっています。



人事に関する取り組み

人事制度

「年功型」と「成果型」に加え、「技能・知識型」を調和させた人事制度を運用しています

当社グループでは、社員が安心して働くことができ、かつ取り組んだ仕事の成果が正当に評価される人事制度をめざしております。人事制度は、社内外の環境の変化に適応し、その時の状況に合ったものに变化させていくことが大切であると考えております。2013年度までは各社が独自の人事制度を運用しておりましたが、新しい事業が生まれる中で、まじめにがんばる人やチャレンジする人を応援し働きがいを感じられる制度をめざし、2014年度に株式会社大栄衛生および株式会社大協において人事制度を見直し、「年功型」と「成果型」を調和させたグループ共通の人事制度を導入いたしました。

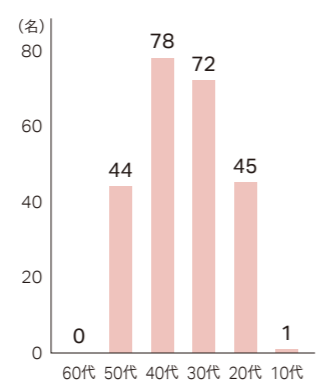
さらに、グループ各社の今後の成長や展開を踏まえたうえで、多様な人材の活躍に対して正当かつ柔軟に処遇・評価を行うことを目的に、2018年度から人事制度の見直しを行いました。給与体系の考え方を整理し、「年功型」と「成果型」、さらに「技能・知識型」と3つの観点を調和させた制度で、有資格者や専門的な知識を有する社員には、それに見合った手当を支給するなどの見直しを行い、2021年度時点で合計120名に資格取得の手当を支給しております。

また、2020年度は同一労働同一賃金に対応するため、アルバイトや派遣社員等有期契約社員の待遇面や福利厚生面の見直しを行い、就業規則などを改訂し2021年度から施行しております。加えて、新型コロナウイルス感染症対策としてのテレワーク実施状況を踏まえて、在宅勤務規程を新たに制定しております。

人事制度の変遷



2021年度の社員の年齢構成(名)



人事関連データ

種類	年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
社員	(名)	143	145	161	198	214	228	240
アルバイト	(名)	52	50	57	57	65	68	74
従業員数*	(名)	195	195	218	255	279	296	314
女性従業員比率	(%)	13.6	14.7	15.2	11.4	11.6	13.5	12.1
女性役職者比率	(%)	8.3	7.9	9.3	8.6	8.5	8.5	10
社員平均年齢	(歳)	39.0	31.3	38.2	46.3	39.0	40.2	39.6
社員平均勤続年数	(年)	12.2	7.4	8.7	9.3	8.5	8.9	7.2
社員離職率	(%)	8.7	8.2	7.7	7.6	13.2	9.5	11.5

* 社会保険未加入の時短勤務対象者も含む

各種規程の制定や改定

法令の改正と共に、人事制度や働き方の改善や選択肢の拡大に対して、関連する規程の改定や新たな規程の制定を継続的に行っております。2021年度には、下記記載の規程改定や新たな規程の制定を行いました。

制定	ハラスメント防止規程の制定		
改定	業務分掌規程の改定 就業規則の改定 退職金規程の改定	職能グレード規程の改定 育児・介護休業規程の改定 派遣従業員規程の改定	プライバシーポリシーの改定 販売管理規程の改定 与信管理規程の改定

資格取得実績

シヨベルローダー等運転	1人
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者	1人
酸素欠乏・硫化水素危険作業特別教育	2人
フォークリフト運転	2人
有機性廃棄物資源化施設技術管理士	1人
有機溶剤取扱業務従事者	1人
玉掛技能講習	1人
ビジネスキャリア労務検定(3級)	1人

資格取得支援制度の活用

働く人のキャリアアップを目的に資格取得支援制度を設けております

勤務するうえで必要となる資格や技能講習や定期的な研修の受講はもちろんのこと、社員全員が安全かつ質の高い業務遂行ができるよう資格取得の支援を行っております。

安心して働ける環境づくり

ワーク・ライフ・インテグレーション

ライフイベントに合った制度を整備し、仕事と家庭の両立を支援しています

当社グループでは、性別や年齢などの属性にとらわれることなく、分け隔てのない採用、役員・管理職への登用、賃金体系とすることで、多様な人材が活躍できる環境づくりに努めております。

また、2018年度から働き方改革の一環として、勤怠管理システムを当社グループで導入しました。同システムの導入により残業時間や有給休暇などの効率的な管理が可能となっています。これにより、従業員本人が自分の勤務状況について確認ができるとともに、上司が部下の残業時間などをリアルタイムで確認・把握できるようになったことで、仕事の割り振りや配分を適宜調整することなどが可能となり、結果的に残業時間の低減につながっています。

また、従業員のワーク・ライフ・インテグレーション（仕事と生活の融合）の実現を重要テーマと捉え、出産や子育て、家族の看護や介護など、多様なライフイベントに合った制度を整備し、仕事と家庭の両立を支援しています。具体的には、配偶者の出産時に3日間の特別休暇制度を設けているほか、グッドホールディングス株式会社、株式会社リヴァックスおよび株式会社リリーフでは、病院の通院や付き添い、子どもの行事への参加に利用しやすいよう、半日単位で有給休暇を取得できるようにしております。また、2020年度は震災や台風・暴風雨などによる災害時に特別休暇を取得できるように就業規則を改定しました。

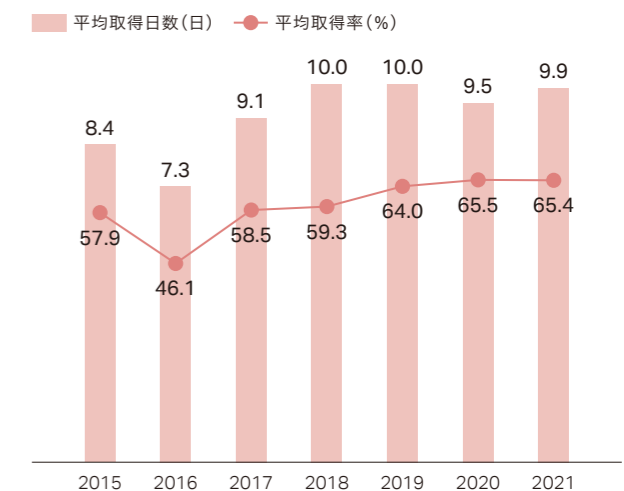
さらに新型コロナウイルス対策のために在宅勤務を実施するとともに、制度の整備を行い、2021年度から正式に在宅勤務制度を導入しております。このように環境の変化や働き方の多様化に対応し、従業員の安全安心につながる制度となるよう継続した改善と整備を行っています。

社内研修について

ハラスメント研修をオンラインで実施

働きやすく快適な職場環境とするために、社員がハラスメントに対する正しい認識を持ち、ハラスメントを未然に防止することが重要と考え、毎年ハラスメント研修を社員向けおよび管理職向けに実施しております。2021年度は右記のとおり、オンラインによる動画視聴形式でのハラスメント研修を実施いたしました。

有給休暇取得状況



主な支援制度

制度名	制度の内容	2021年度利用者
産前産後休業制度	出産前および出産後において一定の期間で休業が可能です	2名
育児休業制度	育児に専念するため、性別に関係なく、子が1歳に達するまで(最長1歳6ヵ月まで)休業が可能です	1名
介護休業制度	介護を必要とする家族の介護のために一定の期間で休業が可能です	0名
短時間勤務制度	3歳に満たない子を養育する社員または家族を介護する社員は、所定労働時間の一部を短縮した勤務が可能です	0名
定年退職者再雇用制度(上記対象者人数)	60歳を超えても働く意欲があり、一定の基準を満たすすべての方を嘱託として再雇用します	2名
自己啓発支援制度	会社の認めるビジネススクールの受講や資格の取得に対し支援金を支給します	1名
慶弔見舞金制度	結婚祝金・出産祝金・傷病見舞金・災害見舞金・死亡弔慰金があります	24名

対象者	研修概要
管理職向け研修	・上司のハラスメント事例を通してグレーゾーン(ハラスメントかどうか判断に迷うケース)への対応ポイントを学ぶ ・職場のハラスメント対策 職場の3大ハラスメント(セクシャルハラスメント、パワーハラスメント、モラルハラスメント)の基本知識、事例とその対策
全社員向け研修	・パワーハラスメント パワーハラスメントの基礎知識や具体例、防止策 ・セクシャルハラスメント セクシャルハラスメントの基礎知識や具体例、防止策

永年勤続者表彰

功績を称え、5名を表彰しました

勤続10年、20年、30年の節目にあたる社員の功績を称え、永年勤続者として表彰しています。

グループ6社永年勤続者（2021年度）

勤続年数	対象人数
30年	1名
20年	3名
10年	1名
合計	5名



従業員の心とからだの健康管理

安全衛生委員会をグループ全社で行っています

従業員が50人以上の事業場で義務付けられている安全衛生委員会の設置は、株式会社リヴァックス、株式会社大栄衛生および株式会社大協の3社が対象となり、各社で安全衛生委員会を設置し活動しております。また、株式会社リリーフ、株式会社ダイキョウクリーンおよびグッドホールディングス株式会社においては、50人未満の事業場のみで設置義務の対象とはなっておりませんが、2021年度より3社合同での安全衛生委員会を設置し、従業員の安全衛生についての活動を行っております。

安全衛生委員会における主な活動は以下の通りです。

- ・時間外労働や有給休暇取得状況の共有および対策
- ・健康診断の実施状況の確認および推進
- ・ストレスチェックの実施
- ・産業医による面談、フォロー
- ・職場巡視および職場環境の改善
- ・安全衛生に関わる情報共有

上記の中でストレスチェックの実施状況については右記の表に記載のとおりですが、ストレスチェック後、希望者には産業医による面談指導の実施や、集団的に分析し

た検査結果をもとに職場環境の改善にも努めています。また、外部相談窓口も設けており、従業員が自分自身のストレス状況に気づききっかけづくりとメンタルケアに寄り添うサポート体制を整えております。

さらに、メンタルケア対策として外部専門家によるラインカウンセリングやメール相談窓口を設置し、当社グループ全従業員が直接いつでもどこからでも相談できるようにしています。

2021年度の各社ストレスチェック実施概要

大栄衛生		大協	
実施期間:2021年10月13日~11月13日		実施期間:2021年10月1日~10月31日	
対象者	受検者	対象者	受検者
正社員	59名	正社員	35名
嘱託社員	2名	嘱託社員	4名
アルバイト	11名	派遣アルバイト	23名
合計	72名	合計	62名

リヴァックス		グッドホールディングス/ リリーフ/ダイキョウクリーン	
実施期間:2021年6月8日~6月18日		実施期間:2021年6月28日~7月16日	
対象者	受検者	対象者	受検者
正社員	54名	正社員	73名
嘱託社員	1名	嘱託社員	0名
アルバイト	1名	アルバイト	9名
合計	55名	合計	82名

アルバイトを含めたグループ全従業員を対象に健康診断を行っています

産業医による健康診断を年に1回（深夜勤務のある従業員は半年に一回）、実施しているのに加え、希望者を対象にインフルエンザの予防接種を行っています。健康診断の結果がC~E判定など正常参考値を超えた従業員については、産業医に相談し、就業上の措置や健康保持のためのアドバイスを受け、社員の健康管理に対する意識を高めるとともに、必要に応じて就業内容や労働時間に配慮するなどの健康支援に努めています。

採用活動

37名が新たに仲間に加わりました

事業拡大にともなう人員増強として、2021年度は中途採用者37名に入社していただきました。また、アルバイトの活躍支援にも力を入れており、2021年度は6名のアルバイトを正社員に登用しました。

地域社会とともに

地域社会と地球のために貢献できることを追求する企業グループへ



基本的な考え方

グッドホールディングスグループは、事業を通じて社会の持続可能な発展に貢献するとの考え方に基づき、地球環境としての課題解決への貢献、地域との共生、地域発展への貢献という観点から社会貢献活動を推進しています。

活動の目標と実績

[活動のテーマ] 社会に安心、信頼される企業づくり

	2021年度目標	2021年度実績	2022年度目標
リヴァックス	・安心、信頼される 廃棄物処理サービスの追求 ・世の中の食品ロスを減らす	・フードバンク関西への寄付 ・施設見学の受入 ・メールマガジンの発行 ・セミナーの開催	・安心、信頼される 廃棄物処理サービスの追求 ・世の中の食品ロスを減らす
リリーフ	・地域交流の実施 ・生前整理セミナーの実施 ・合同慰霊祭の開催	・子ども農業塾に参加 ・サステナビリティレポートの発行 ・生前整理セミナーの実施 ・合同慰霊祭の開催	・地域交流の実施 ・生前整理セミナーの実施 ・合同慰霊祭の開催
ダイキョウクリーン	・社会貢献活動への参加	・子ども農業塾に参加 ・サステナビリティレポートの発行	・社会貢献活動への参加
大栄衛生	・社会貢献活動への参加	・子ども農業塾に参加 ・サステナビリティレポートの発行	・社会貢献活動への参加
大協	・地域交流の実施 ・社会貢献活動への参加	・自治会地域清掃の参加 ・サステナビリティレポートの発行 ・清掃活動の実施（週1回） ・小学校へサツマイモ苗を寄贈	・地域交流の実施 ・社会貢献活動への参加
グッドホールディングス	・社会貢献活動への参加 ・慈善団体などへの寄付 ・サステナビリティレポートの発行 ・報告書賞への応募	・子ども農業塾に参加 ・チャイルド・ドリームへの寄付 ・サステナビリティレポートの発行 ・報告書賞への応募	・社会貢献活動への参加 ・慈善団体などへの寄付 ・サステナビリティレポートの発行 ・報告書賞への応募

子ども農業塾の開催

子どもたちの農業体験・学習をサポートしています

子ども農業塾とは、阪神間の中でも豊かな自然が残っている甲山にて、子どもたちが土づくり（落ち葉堆肥づくり）や米づくりなどの体験を通じて、自然の仕組みに関すること、自分たちの生活のことについて学ぶ取り組みです。

食はもちろんのこと、その基になる農業について学び、実際に体験する場を提供することも社会的責任の一つであり、次世代の育成にもつながるとの思いからスポンサー

として主催、運営事務局であるNPO法人子ども環境活動支援協会様と協働で開催しています。

2021年度は小学生のお子さんを持つ家族での参加を対象とし、10組のご家族と一緒に全5回の活動が行われました。

2021年度子ども農業塾1年間スケジュール

- 第1回 田植え・サツマイモの植え付け
- 第2回 田んぼの観察・生き物発見
- 第3回 畑のお世話
- 第4回 稲刈り
- 第5回 サツマイモの収穫・しめ縄作り・修了式



地域清掃

地域の美化活動に貢献しています

毎年、各事業会社にて自治組織主催の地域清掃に参加しています。2021年度は、株式会社リヴァックスが鳴尾浜産業団地の自治組織主催の清掃活動に参加し、近隣のごみ拾いと草取り、周辺道路の清掃を行いました。今後も当活動を継続し、地域の美化活動に貢献していきます。



関西大学第一中学校に環境学習を実施

廃棄物について子供たちに学びの機会を提供しています

当社グループでは、未来の消費者に対する教育支援として、地域の教育機関に向け環境教育を行っています。

株式会社リヴァックスでは、私たちの生活に身近な「清涼飲料」から環境問題について考えてもらおうと、2008年度から関西大学第一中学校2年生に環境学習を実施しています。6月の事前学習では飲料商品のリサイクルについて講演し、7月にリサイクル施設を見学していただきました。

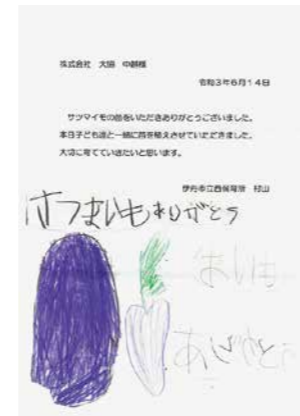


サツマイモ苗の寄贈

小学校・幼稚園にサツマイモ苗を寄贈しました

株式会社大協では地域社会への貢献および地域コミュニケーションの一環として、2010年度より伊丹市内の小学校へサツマイモ苗の寄贈を行っています。

子供たちが小学校での栽培活動を通じて環境教育や食育に活用できるようにと始めたこの活動は11年目をむかえ、今年度は小学校15校、幼稚園8園、保育所6校、こども園3園、特別支援学校1校の「合計33施設：2,127苗」を寄贈しました。



企業スポーツ活動

セーリングチームが各種大会に出場しています

当社グループでは、2013年にセーリングチームを創部しました。以降、数々の大会で好成績を収め、2018年10月の全日本実業団ヨット選手権では日本一となり、また2016年および2019年には、日本代表として世界大会に出場するなど着実に実績を積み上げています。

2021年は新型コロナウイルスの影響で多くの大会が中止、延期となりましたが、3つの大会に出場することができました。そんな中2021年7月の国際スナイブ級関西選手権では、GOOD HOLDINGSより2チーム出場し、2位、3位入賞と好成績を収めました。



2021年度成績・活動報告

5月 全日本スナイブ級ヨットマスターズ選手権大会 11位
7月 国際スナイブ級関西選手権大会 2位・3位
12月 全日本スナイブ級ヨット選手権大会 34位・54位

お客様とのコミュニケーション

展示会への出展

多くのお客様とお会いできる機会をつくります

事業内容やCSRの取り組みを知っていただくだけでなく、多くの方が抱えている現状の課題をお聞きするため、グループ各社がさまざまな展示会に出展しております。

2021年度に出展した主な展示会

開催月	出展会社	名称
6月	リリーフ	エンディング産業展2021
7月	リヴァックス	第45回 プラントメンテナンスショー
9月	リリーフ	賃貸住宅フェア2021
11月	ダイキョウクリーン	ビルメンヒューマンフェアEXPO 2021



セミナーの開催

啓蒙活動に努めています

当社グループでは、お客様や消費者の方が環境や社会問題に対して、関心・知識をもつことが大切と考えております。そのため、各社で定期的に情報を発信するとともに、みなさまが相談できる場を提供しております。

2021年度に開催、登壇したセミナー

グッドホールディングス

開催月	名称/主催
2022年1月	第3回SDGsビジネスモデル研究会/タナベ経営セミナー

リリーフ

開催月	名称/主催
2021年7月	片付けサービスとは/コープ環境(加古川)
2021年9月	生前整理の進め方/ニチリョク名古屋支店 すぐできる!おかたづけ講座/クレリ宝塚
2021年10月	需要が高まるおかたづけサービスについて/みなと銀行
2021年11月	片付けサービスとは/コープ環境×4回(稲美、御影、吹田、吹田) 片付けからはじめる生前整理セミナー/神戸市灘区社会協議福祉会(はんしん高齢者くらしの相談室協賛会員として参加) 転ばぬ先の生前整理/ニチリョク
2021年12月	片付けサービスとは/コープ環境×2回(三木、須磨) 生前整理のはじめかた/八光殿 四条畷 シニアカウンセラー養成講座 遺品整理のトラブルと費用事例/毎日新聞社
2022年1月	片付けサービスとは/コープ環境×3回(豊中、舞子、姫路) 実家のおかたづけ成功のコツ/小田急不動産
2022年2月	片付けサービスとは/コープ環境(三木)
2022年3月	片付けサービスとは/コープ環境(神戸西)

社長ホットラインの設置

お客様からの大切なお声をダイレクトにお伝えいただけます

お客様のみならず、取引先様からのご意見や気づきを大切なお声として頂戴するために、グループ各社の社長へ直通するメールフォームをグッドホールディングスグループ全社のホームページで公開しております。寄せられたご意見は社長を含めて各部門にて共有し、今後のサービス向上に役立ててまいります。

メディア出演・掲載実績

当社グループ各社の取り組みを各メディアにて取材、掲載いただいております

グッドホールディングス

掲載媒体名・発行日	取材・出版社名
環境新聞 2021年11月24日号	環境新聞社

リヴァックス

掲載媒体名・発行日	取材・出版社名
エコひょうご 2021年9月21日秋号	公益財団法人ひょうご環境創造協会
全国農業新聞 2022年2月18日号	一般社団法人全国農業会議所

リリーフ

掲載媒体名・発行日	取材・出版社名
循環経済新聞 2022年2月28日号	日報ビジネス株式会社

市民の方々からのメッセージ

市民のみなさんからお手紙をいただきました

コロナ禍においては、地域の方々からたくさんの感謝の手紙やお声かけをいただきました。それらは、感染リスクの不安がある中で私たちにとって大きな励みとなりました。直接手渡してくださったお手紙やごみ袋に付けてくださったメッセージカードは、作業員がすべて会社に持ち帰り、全社員で喜びを共有しております。

これからも地域の豊かな暮らしを支える社会インフラとして、誇りを持って事業に取り組んでいきたいと考えております。



消費者課題への取り組み

ウェブカメラの設置

廃棄物処理状況をリアルタイムで公開しています

株式会社リヴァックスの施設内にウェブカメラを設置し、ホームページにてリアルタイムの映像を配信しています。遠隔地からでも廃棄物の搬入状況をご確認いただくことで、廃棄物処理の透明性を実現しています。



廃棄物の搬入・計量場所

事業継続計画 (BCP) の取り組み

BCP災害対策本部を設置しています

当社グループでは、大規模地震ならびに大型台風の発生を優先対応リスクの一つとして位置付け、被害未然防止のために従業員（とその家族を含む）の生命と安全を確保し、『地域社会の早期復旧』と『顧客の事業活動』に貢献すべく、可能な限りすみやかに事業を再開し、継続できるようBCP災害対策本部を設置しています。また、2020年3月には、新型コロナウイルス感染症の拡大に対して、従業員の健康・安全の維持と社会的な使命を帯びた事業の継続を担保するために、新型コロナウイルス対策としてBCP災害対策本部を設置し、感染症による事業リスクや防止対策、感染した従業員への休業補償などについて協議、情報共有を行いました。

契約外廃棄物の混入防止

コンテナに掲示板を設置し、混入防止に努めています

事前に契約したものと異なるものが混入していた場合、適正な処理が難しくなるだけでなく、事故や火災などの原因につながる可能性があります。株式会社リヴァックスでは正しい分別ができていない場合、すみやかにお客様に報告するとともに、設置しているコンテナ箱に掲示板を設置するなど、再発および未然の混入を防ぐよう取り組んでいます。

BCP訓練

2021年7月にBCP訓練を実施しました。台風および震災を想定した、初動対応や安否確認を実施しました。

安否確認システム導入

人手に頼らず災害時に確実に従業員（正社員だけでなくアルバイトや派遣社員なども含め）の安否確認を迅速、確実に実施できるように、2020年9月に安否確認システムを導入しました。これにより、短時間での従業員の安否確認と情報伝達が可能となりました。

BCPマニュアル改訂

新型コロナウイルス感染症の流行を受け、2020年8月にBCPマニュアルに新型コロナウイルス感染症に対する対応マニュアルを追加し、感染症の予防対策、感染症疑いがある場合、濃厚接触者となった場合、感染した場合などの対応について、初動から具体的な対応内容について記載しております。

グッドホールディングスグループはチャイルド・ドリームの活動を支援しています



Child's Dreamについて

1990年代後半に計画経済から市場経済の道を歩み始めたカンボジア、ベトナム、ラオスなどメコン川流域の国々。「東南アジア諸国連合 (ASEAN)」のこれらの国々は、大きく変化する社会・経済環境の中で、確実に発展を遂げています。しかし、一方で地方との格差は急激に拡大しており、経済的不平等や内戦、政情不安などにより複雑な問題が絡み合い、いまだ深刻な人道危機が発生しています。

人権侵害により十分な教育機会が与えられていない子どもたちのために2003年より活動を始めた団体が「Child's

Dream]です。子どもたちの医療・教育環境を改善すべくコミュニティとの協働を通して目的を達成することを目標に日々活動に取り組んでいます。



グッドホールディングスグループが支援する理由

当社グループでは、「五方よし」を経営理念として売り手と買い手がともに満足し、また社会貢献もできる会社をめざしております。

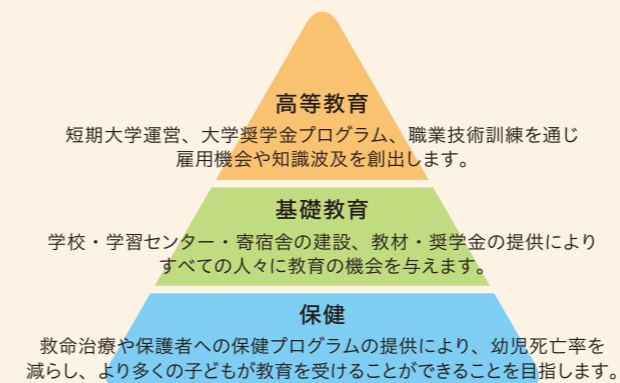
また、社員および従業員を含む関係者が自らの成長と豊かさを実感すること、さらに次世代へ向けて持続可能な社会の構築を目標にさまざまな社会課題の解決に積極的に取り組んでいます。社会貢献においては国内のみならず、世界の人々の豊かな社会の実現にも積極的に貢献していきたいという思いがあります。

株式会社リリーの「おかたづけサービス」で回収した不用品（家具、日用品など）を海外で再び活かす取り組みを2013年より始めました。これまで東南アジアを中心に活動してきましたが、都市部から離れた地域を訪問するにつれて、さまざまな社会問題や経済格差を目の当たりにしました。

そのような問題の将来的な解決のため教育機会の提供で子どもたち・青少年の自立を支援する「Child's Dream」に共感し、グループ全体の売上の一部を寄付することとしました。

Child's Dreamの活動について

Child's Dreamの活動には「保健」「基礎教育」「高等教育」があります。その中でも教育は、貧困撲滅、持続的経済成長への大きな原動力です。理解力や正しい判断力を鍛え、文化的平和や深い社会のつながりの基盤を構築することができ、所得獲得および質の高い雇用機会を生み出すことができます。

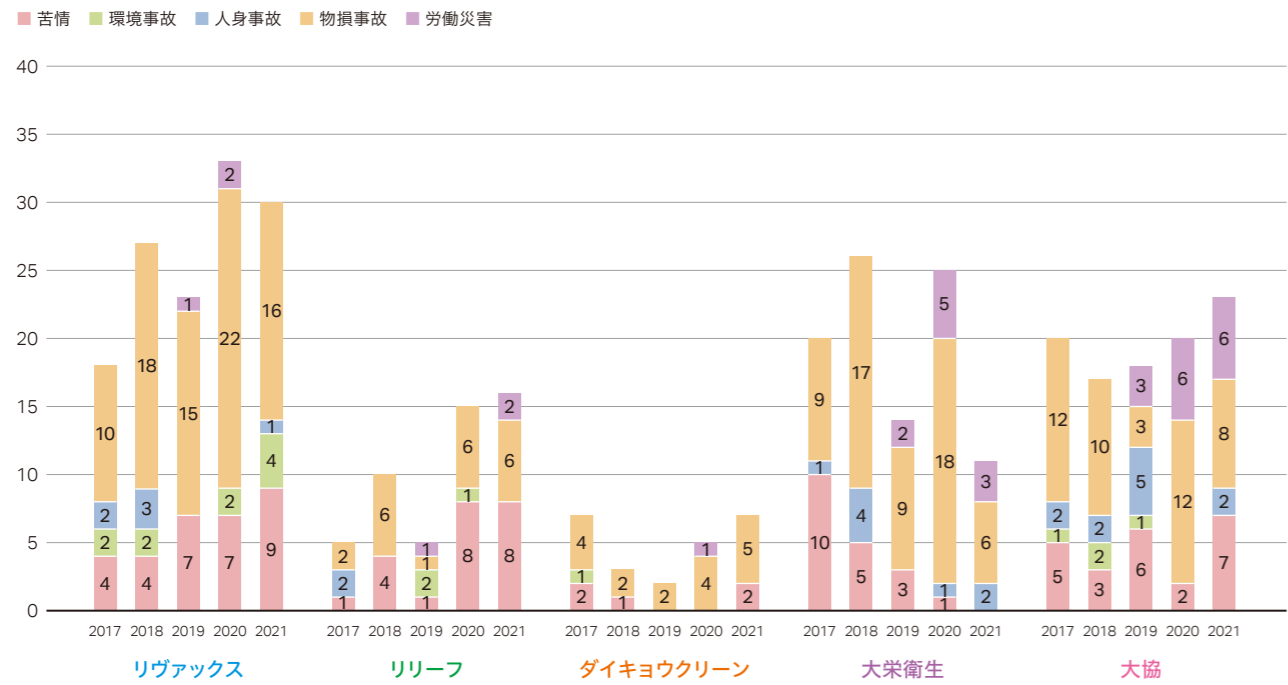


Child's Dreamの活動実績 (2021年時点)

高等教育	44,517名の学生へ職業訓練の指導を提供しました。 286名の学生に大学進学のための奨学金を給付しました。
基礎教育	327校の学校を建設しました。 1,898校の高校および専門学校へ奨学金を給付しました。
保健	4,850名へ薬物防止のための意識啓発を行いました。 9,412名の子どもたちへ健康・衛生教育を提供しました。 1,890名の子どもたちへ救命手術と医療支援を提供しました。

苦情・事故

2021年度の苦情・事故は87件(苦情26件、事故50件、労災11件)で、昨年度99件(苦情18件、事故66件、労災15件)と比較し、減少いたしました。社会にとっても、働く従業員とその家族にとっても安全で安心な企業をめざし、再発防止に努めてまいります。



リヴァックス

件数	内容	原因	対策
1	サンプル容器からの液漏れ指摘があった	通常使用しているサンプルボットの密閉性が低く、流動性の高い廃棄物の送付には適していなかった	・現在使用しているものよりも密閉度の高いサンプルボットを準備し、流動性の高い廃棄物の保管、送付はそれを使用するルールとする ・内容を社内周知した
1	搬入したBSFにごみの混入があったとの指摘があった	異物混入分のBSFを積んでしまった	・積込の際には異物混入のない物の積み込み ・パッカンの製品を入れる前にパッカンの空であることを確認する
1	交換したコンテナから異臭があるので、別のコンテナを設置してほしいとの苦情	特に臭いがする汚泥を取り扱った後だった	今後、臭いのきついコンテナは交換をしない
1	側溝清掃中にグレーチング横のコンクリートを割ったとの連絡があった	作業中の注意不足	社内へ事故内容を周知し、注意喚起した
1	取引企業様より汚泥をフレコンに詰めたものを他取引企業様の平車にて運搬した際、構内にてフレコンの紐が切れ、フレコンより水気がしみ出してきたことによる厳重注意を受ける	確認が十分でなかった	作業は念入りに行い、周りの状況を十分に把握し、突発的なことにも対処できるよう注意する
1	隣地企業様より臭気の苦情 ※	臭気吸引プロアが不具合のため	・プロア不具合はすぐに解消 ・苦情の情報を社内周知し、注意喚起を行う
1	隣地企業様より臭気の苦情 ※	定修で薬洗風量が下がっていたままになっていたこと、ガラリ窓の目張りシートが一部外れていたことが重なった	・薬洗風量を調整し、目張りシートの補修を行った ・苦情の情報を社内周知し、注意喚起を行う
1	隣地企業様より臭気の苦情 ※	・新設外気ダンプの電磁弁が全開になっており、廃液ビットの臭気が吸引出来ていなかったことで建屋内に臭気がこもっていた ・朝一の車両出入りが頻繁にありシートシャッターの開け閉めが多かったことで一時的に建屋外に臭気が漏れた	・臭気吸引ラインを正常な吸引状態に戻す ・定期的にダンプの開度とダクト内の詰り確認を行う ・建屋内にある製造室-製品室間の扉を常時開放せず、都度開け閉めで通ることで建屋内の風の通りをなくす
1	二次排出先(肥料会社)に搬入したBSFに異物混入があったとの連絡があった	確認が十分でなかった	社内へ事故内容を周知し、注意喚起した
1	交差点左折時に、横断歩道を横断中の自転車に接触し、転倒させてしまった	自転車が夕日と重なり目視できなかった	社内へ事故内容を周知し、注意喚起した

※隣地企業様とは、関係が良好であり、「少しでも気になったことがあれば言ってください」という関係の中で、苦情が計上されています。

環境事故4件	客先で吸引作業中に廃液と空気を一緒に吸い込んだことによりホースが暴れてしまい、吸引車に接続しているホースが裂けて廃液が飛散した	作業中の注意不足	・使用ホースについて負荷のかかる接続部分は簡易補修は行わず、切断か交換し使用する ・作業中はホース状態を監視し、破損があれば直ちに作業を中断し破損部分の補修を行う
	構内の清掃分の汚泥を吸引後、圧送で排出時に、ホースの繋ぎ目ジョイント部分から汚泥が漏洩した	慣れた現場で確認を怠った	・圧送排出時は基本一本物のホースを使用。接続する場合はタケノコタイプのジョイントを使用しバンドで締め付ける ・接続部分はウエスを巻いてビニールテープで固定、路面部分はブルーシートを敷く
	廃液の吸引作業中に作動油タンクからポンプの途中にあるメーター部分との接続部分が破損、作動油が漏洩した	確認が十分でなかった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	排出時、ホースを繋ぎ終わって圧送をかける際、排出のバルブが空いていると思い込み、圧送をかけるとハッチの間隙から吹き出してしまった	思い込みと注意不足	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
物損事故16件	交差点にて右折する際、右折レーン2車線の内側車線から来たトラックに右後方が接触した	確認が十分でなかった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	客先構内にて作業中の車両移動時に、場内の花壇(コンクリート壁)に車両後部バンパーが接触し、コンクリート壁の一部を破損させた	確認が十分でなかった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	運搬車両が積込場にバックで進入した際、後方に設置してあったコンテナに接触した	確認が十分でなかった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	AT装置の基礎のコンクリートが欠けていることを発見した(リフトでの接触)	確認が十分でなかった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	作業中に側溝に取り付けてあるコンクリートを破損させてしまった	確認が十分でなかった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	駐車場前の砂利吸引作業の際、側溝壁面が剥がれ落ちてきた	確認が十分でなかった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	高速出口でハンドル操作を誤り、分岐出口で左側壁と接触し、左ミラー破損と車体を傷つけてしまった	確認が十分でなかった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	トラック駐車場の駐車スペース横にある街路灯に吸引車の後ろバンパーが接触した跡があった	確認が十分でなかった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	引取先での入場待ちで、合図があるまで外の道で左側に車両を停車させて待機しようとした際、助手席側と壁が接触した	慣れた現場で確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	リフトで走行時にマストが配管にぶつかり、配管の保温材が破損、配管へ煙突間のフレキシダクトが破れてしまった	慣れた現場で確認を怠った	・フレキシダクトの補修 ・進入すると衝突するマスト高さのリフトには、本体に進入不可であることを表示する ・進入すると衝突するポイントには表示を行い注意喚起する ・通路には、配管の高さと同高のバーを手前に取り付け進入前に気づくようにする
	計量後、方向転換しようとして少し前進をしたのちハンドルを右に回しながら後退している最中に、カーポートの屋根部分と助手席側の窓ガラスが接触し破損した	慣れた現場で確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	引取先に行く途中、交差点で内側を左折する軽トラックと吸引車の内輪差による巻き込みで接触した	確認が十分でなかった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	コンテナ車を誘導している際にバンパー右角が残渣ホッパーに接触し、破損した	確認が十分でなかった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	排出作業後、車両を駐車する際に停車してある牽引車の荷台前部分と左側ブレーキランプが接触した	確認が十分でなかった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	場内でパッカンを洗浄しようとした際、パッカンを洗車用ホースの配管が接触し配管が破損した	慣れた現場で確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	パッカンをリフトで荷下ろし中、リフトの爪から前方向にパッカンの滑り落下しパッカンの一部が破損した	慣れた現場で確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した

リリーフ

件数	内容	原因	対策
1	想い出整理バック集荷の依頼を受けたがシステムへの登録・集荷の手配漏れのため、お客様が希望する日時に集荷出来なかった	確認が十分でなかった	今後、集荷依頼の受付は全て社員で行うよう周知・徹底した
1	作業中に領収書と作業完了報告書の入ったバッグを紛失したことが同日に発覚した	作業中の注意不足	書類等は確認後、管理の徹底を行う
1	処分予定のなかった本棚4つを誤って処分してしまった	お客様内で意見が分かれていたため、思い込みで処分してしまった	・残しておく物には取り扱い注意テープを必ず貼る ・再度ルールの徹底を周知
1	作業中にお預りした鍵を紛失	作業中に鍵を入れていたポケットのチャックが同日作業中に破損しており、鍵が落下した	作業中はキーボックスを現場に設置し、作業員が持ち歩かないように管理を徹底
1	電話番号に誤りがあり、間違った内容をご案内してしまった	受電時にシステム登録の際、前に受付したお客様の電話番号を記載してしまっていた	自身で把握している情報が合っているかお客様に確認するよう徹底した
1	敷地内にて荷物の撤去作業中に手配していた一般廃棄物収集運搬業者が運搬車両の脱着式コンテナを路面に降ろした際、2m四方の白い車輪跡を残してしまつたと管理人より作業後に連絡があった	現場状況を確認出来ていなかった	・事前に収集業者への車両の確認 ・コンテナを降ろしての作業の場合はコンパネ・布団等を用いて路面保護するよう現場作業員に周知し徹底を行う
1	・玄關扉の養生テープを剥がす際に扉表面の塗装が剥離してしまつた ・廊内、階段2段目の床に傷があったとお客様より作業後に指摘を受ける		・扉の材質が木製の場合はマジックテープバンドなどを使用し対応する ・床養生を行い、物の搬出時に不安定な物はテープなどで固定し落下しないように搬出する
1	請負契約書等の内容が誤つた書類を送付してしまった	郵便を出す前に封入前の再確認を怠った	・郵送物は他書類と混ぜる可能性もあるため、単体で作業完了をしない ・作業場所を別途設け、毎日の郵便物締めの前に二重チェックを行い封をする

物損事故6件	養生テープにより扉の塗装が剥離した	塗装の弱い箇所にテープを貼った	塗装の弱そうな所は避けて、別の箇所に貼る
	社内駐車場で担当者が4トン車をバックで走行中、駐車してあった社員自家用車のフロント部分に接触	建物の屋根に気を取られ後方確認を怠った	・ 駐車場や現場でのバック運転は慎重に行うよう指導 ・ 複雑な状況の場合は一度降りて状況確認の徹底
	大型家具の搬出のために外しておいた扉が、作業中に倒れる	立てかけ方が悪く、倒れてしまい脚立に当たってしまった	・ 扉を外す場合は安全な所に設置する ・ 毛布などで保護をするように指導
	高速を走行中、脇見をしている間に縁石に寄りすぎて接触し、左前後輪のホイールに擦り傷ができた	脇見運転をしていた為	安全運転を行うよう、周知・徹底した
	家具を2階より搬出する際、引き戸と接触し損傷した	狭い廊下で左右の確認が不十分だった	搬出経路の確認、家具の大きさ等も確認し無理な搬出を行わない
	会社敷地内にて車両を移動中、別車両のミラーに接触	雨により視界が悪かった	車両を移動する際、後方確認するスタッフを配置する
労働災害2件	作業時、庭の花壇の植木鉢を回収した際、ハチに指を2か所刺される	作業中の注意不足	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	現場のお客様敷地内にて、トラックから資材を降ろしている際に、小走りで行動中に重量で滑り転倒、右胸側面を強打した	脱ぎ履きがしやすい簡易的な靴で作業したことにより滑って転倒した	・ 現場作業中は滑りにくい靴を履き作業を行うよう徹底指導 ・ 靴は指定のみ着用

ダイキョウクリーン

件数	内容	原因	対策
苦情2件	夜間作業後、長時間水が出したままになっていたという報告があった	作業時の最終確認不足	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	作業先から預かったセキュリティカードを紛失してしまった	思い込みと注意不足	・ 事前および作業後の確認の徹底 ・ 社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
物損事故5件	駐車場から出る為に左折した際、左側に駐車していた車両のバンパーを巻き込み擦ってしまった	安全確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	交差点で停車していた際、右折してきたトラックが車両の右側面に追突してきた	相手側の前方不注意	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	作業中に車両が高さ2.2mの看板に当たり、ゴムの部分が破損した	注意不足	安全確認を怠らないよう指導及び周知した
	高圧洗浄作業時、洗浄汚水を飛散させ、商品を汚してしまった	掃除口の養生範囲が不十分だった	作業は念入りに行い、周りの状況を十分に把握し、突発的なことにも対処できるよう注意する
	作業後、車両を駐車位置に戻す為、後退した際、右後方をバッカー車両の右バンパーに接触、破損した	暗くて見えづらい中、確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した

大栄衛生

件数	内容	原因	対策
人身事故2件	一方通行を左折に進入した際、電動自転車と接触、前輪を巻き込む形で運転者を負傷させてしまった	安全確認が十分でなかった	安全確認を怠らないよう指導及び周知した
	右車線を走行中に横断歩道を歩行者が走ってきた為、ブレーキが間に合わず歩行者と接触	運転操作を誤った	横断歩道では必ず一時停止し、歩行者優先で走行する
物損事故6件	ダストボックスを運んだ際、下り坂で重さに耐えきれず、車と接触した	事故予測が十分でなかった	重い時は、必ず二人で数回に分けて運ぶようにする
	左折する際、左タイヤが右車両に接触した	事故予測が十分でなかった	安全確認を怠らないよう指導及び周知した
	ごみステーションに後退で進入する際、後後ろのごみ庫の柱に接触した	後方確認が十分でなかった	後退する際は必ず安全確認を怠らないよう指導・周知した
	ごみステーションに後退で進入する際、停車中の車両に接触した	後方確認が十分でなかった	後退する際は、助手が後方確認を行うとともに、慎重に行う
	対向車が来た為、狭路に進入した際、民家の壁に右前部分を接触した	確認が十分でなかった	安全確認を怠らないよう指導及び周知した
	車両から降りる際、左ドアを門の街灯ガラスに接触、破損させた	確認が十分でなかった	安全確認を怠らないよう指導及び周知した
労働災害3件	不燃ごみを収集中、ごみ袋の結び目を持った際に割れたピンで左手親指を負傷	作業中の注意不足	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	ごみ収集時、袋の結び目を持った際に、割れたピンが出ており、左手親指の内側を刺傷	作業中の注意不足	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	ごみ収集時、散布したごみをちり取りで掃除後、車両下のちり取り入れに手が入った状態で車が走行した為、左手首打撲傷を負う	確認が十分でなかった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した

大協

件数	内容	原因	対策
苦情7件	ごみステーション内に置いていたごみ箱がなくなっており、ごみとして回収されたとの問合せがあった	ごみステーション内の備品の管理方法が十分でなかった	ステーション内の備品と思われる物については、その場で回収せず、クリーンセンターに確認後、連絡があれば事後対応とする。また、ごみと備品を明確にしておらうように依頼した
	ごみと間違えて回収してしまった	確認が十分でなかった	ごみステーションに入っていないものは回収しないわからない場合は確認することを周知徹底した
	回収車が自転車と接触した事に気づかずそのまま行ってしまった	周囲への注意ができてなかった	無理な方向転換をしない、左右ミラーとバックアイの3点の確認を徹底する
	ごみ収集時、ダストボックスのストッパーを解除せずに無理に開けたため、留め具が壊れてしまった	作業中の注意不足	管理人への謝罪及びダストボックスを修理し、備品への取り扱いを丁寧に行うことを周知徹底した
	誤って備え付けの必要な家具を処分してしまった	作業中の注意不足	作業前に内容や注意点を周知徹底するようにした
	敷地内を速度超過していた	慣れた現場で確認を怠った	敷地内の速度厳守やルールを周知徹底した
	ペットボトルの回収後、回収かごがそのままになっており、ドアも開けっ放しになっていた	作業中の注意不足	作業後はそのままにせず、原状復帰をするよう周知徹底した

人身事故2件	ごみ回収後、発進時に左からきた車と接触した	確認が十分でなかった	周りの状況を十分に把握し、突発的なことにも対処できるよう注意する
	左折時に巻き込み確認を怠った為、自転車と接触した	確認が十分でなかった	運転中は運転に集中し、安全確認を怠らないよう指導及び周知した
	走行中に猫が飛び出してきた為、避けようとしたところ電柱に衝突した	作業中の注意不足	社内にて共有した
物損事故8件	コンテナを引き上げる際に、ワイヤーに気づかずフック部分が引っ掛かったまま、動作をした為、支柱を破損した	作業中の注意不足	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	後退で出る際、後ろの花壇に接触した	確認が十分でなかった	安全確認を怠らないよう指導及び周知した
	左折しきれず、後退で戻る際に右側のガードレールに接触した	確認が十分でなかった	安全確認を怠らないよう指導及び周知した
	門内に回収車が入っていった際、跳ね返ってきた門に後方左ウインカーが接触して破損した	作業中の注意不足	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	コンテナの設置場所まで後退した際、コンクリートの堀に気づかず接触した	確認が十分でなかった	安全確認を怠らないよう指導及び周知した
	狭路で方向転換をする為、南側に後退中、窓のサッシに左ミラーが接触した	助手の誘導なしに後退し、考え事をしていた注意不足となった	後退時は助手を降ろし、安全確認・誘導をしてもらい、慎重に運転するよう指導した
	狭路にて対向車が来た為、後退して切替した際、右前にあるポールに気づかず、接触した	安全確認不足	バックを行う際は、目視、サイドミラーやバックモニター等で確認をし慎重に運転するよう指導・周知した
	停車時に前の車から急に後進され、追突した	相手側の不注意	周りの状況を十分に把握し、突発的なことにも対処できるよう注意する
労働災害6件	ごみ収集時、ハチの巣があることに気づかず、首の後ろを刺された	作業中の注意不足	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	ごみ収集後、車両に乗り込もうとしたところ、右後方より来た乗用車と接触	確認が十分でなかった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	バイクで通勤途中、東側通路より2tダンプ車が右折した為、急ブレーキをかけたがダンプ車右側後方部分に接触し、バイクが横転	確認が十分でなかった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	ごみ収集時、車両から降りた際に、左足首を捻った	作業中の注意不足	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	車から降りた際に、足首を捻挫した	確認が十分でなかった	降車の際は、必ず足元を確認するよう指導及び周知した

グッドホールディングス

件数	内容	原因	対策
情報セキュリティ事故(限定的、軽微)2件	webサーバーへの不正アクセス及び不正ファイルの設置(※情報の漏えいやwebサイトの改ざんは確認されておりません)	webサイト管理システムへの不正アクセス	サイト運営ツールのログイン情報の強化、webサーバーおよびサイト管理システムへのIPアドレス制御の実施、システムアップデートの定常業務化
	業務利用携帯電話の紛失(※情報の漏えいは確認されておりません)	注意不足	落下防止ストラップの取付け

ISO26000対照表

	中核主題および課題	対応ページ		中核主題および課題	対応ページ		中核主題および課題	対応ページ
6.2	組織統治	P03~04、32~36	6.5	環境		6.7.5	持続可能な消費	P05~06、17~21、37~40
6.3	人権		6.5.3	汚染の予防	P20~22、37~40	6.7.6	消費者に対するサービス、支援、並びに苦情および紛争の解決	P17~30、46~53
6.3.3	デューディリジェンス	P05~06、41~45	6.5.4	持続可能な資源の利用	P20~22、37~40	6.7.7	消費者データ保護およびプライバシー	P32~36
6.3.4	人権に関する危機的状況	P41~45	6.5.5	気候変動の緩和および気候変動への適応	P37~40	6.7.8	必要不可欠なサービスへのアクセス	P27~29
6.3.5	加担の回避	P33	6.5.6	環境保護、生物多様性、および自然生息地の回復	—	6.7.9	教育および意識向上	P42~44
6.3.6	苦情解決	P33、34、51~53	6.6	公正な事業慣行		6.8	コミュニティへの参画およびコミュニティへの発展	
6.3.7	差別および社会的弱者	P33、44、49	6.6.3	汚職防止	P32~36	6.8.3	コミュニティへの参画	P01~06、10、28、46~50
6.3.8	市民的および政治的権利	P43	6.6.4	責任ある政治的関与	P32~36	6.8.4	教育および文化	P42~44
6.3.9	経済的、社会的および文化的権利	P50	6.6.5	公正な競争	P32~36	6.8.5	雇用創出および技能開発	P30、44
6.3.10	労働における基本的原則および権利	P41~45	6.6.6	バリューチェーンにおける社会的責任の推進	P01~06、11~14、32~36	6.8.6	技術の開発および技術へのアクセス	P01~04、17~22
6.4	労働慣行		6.6.7	財産権の尊重	—	6.8.7	富および所得の創出	P30、41~45
6.4.3	雇用および雇用関係	P41~45	6.7	消費者課題		6.8.8	健康	P21~22、37~45
6.4.4	労働条件および社会的保護	P41~45	6.7.3	公正なマーケティング、事実に即した偏りのない情報および公正な契約慣行	P35、36、49	6.8.9	社会的投資	P46~50
6.4.5	社会対話	P46~50	6.7.4	消費者の安全衛生の保護	P17~36、46~50			
6.4.6	労働における安全衛生	P41~45						
6.4.7	職場における人材育成および訓練	P41~45						



捉える、応える、超えていく

グッドホールディングス株式会社

株式会社リヴァックス

株式会社リリーフ

株式会社ダイキョウクリーン

株式会社大栄衛生

株式会社大協

お問い合わせ先

グッドホールディングス株式会社 経営サポート部

〒663-8142 兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号

TEL:0798-61-1983 E-mail:csr@goodhd.co.jp

